

決算 説明会



目次

1. 決算の概要	3
2. セグメント別の状況	16
3. 通期見通し	22
4. 付加価値向上による成長戦略	31
5. 付加価値成長を実現するために(事業TOPICS)	45

【本資料についてのご注意】

- ・ 本資料の記載金額は原則、百万円未満を切り捨てて表示しております。
- ・ 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。
- ・ 本資料に記載されている会社名、システム名、製品名は、一般に株式会社構造計画研究所ならびに各社の商標または登録商標です。

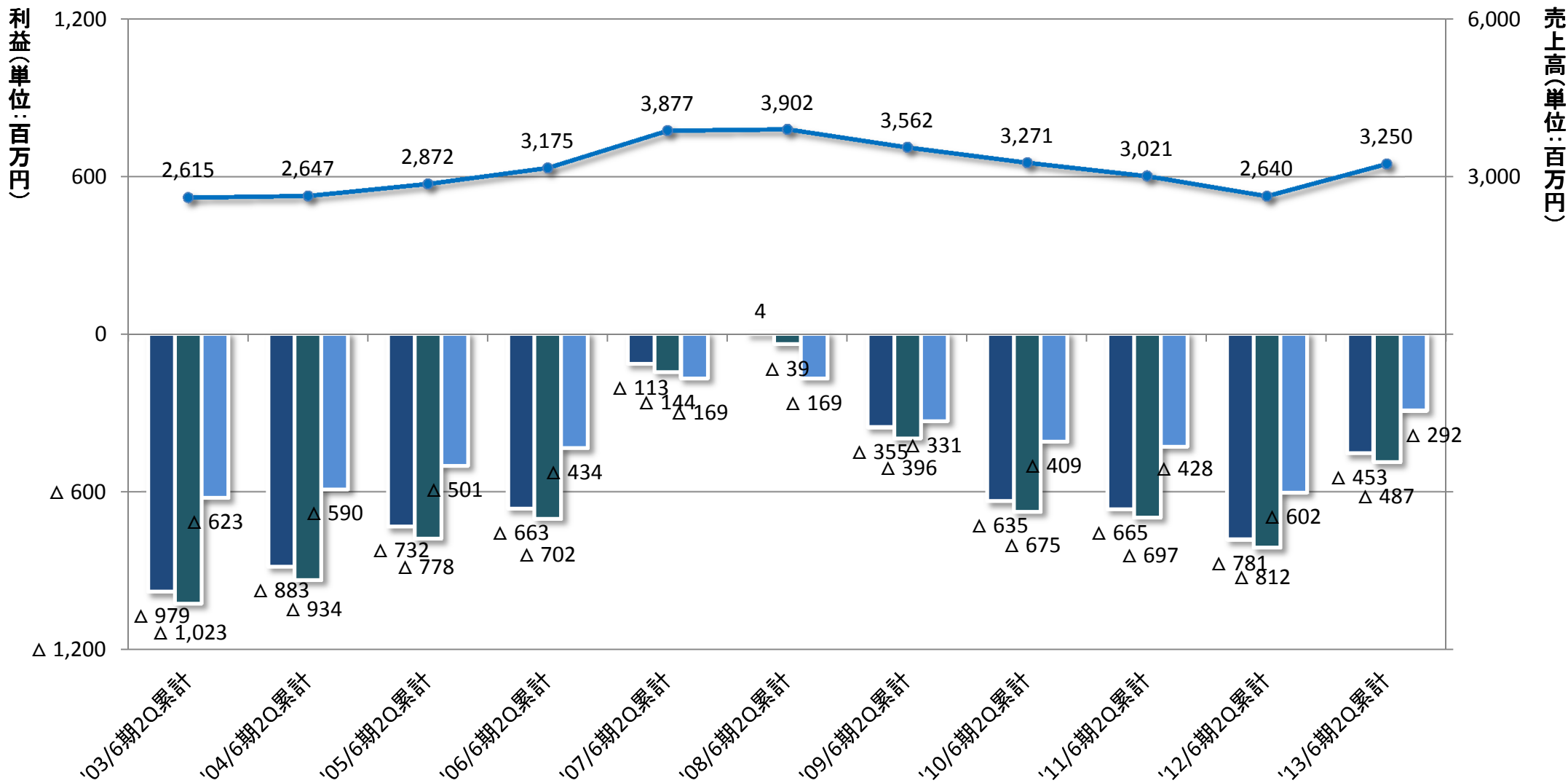
決算ハイライト

(単位:百万円)

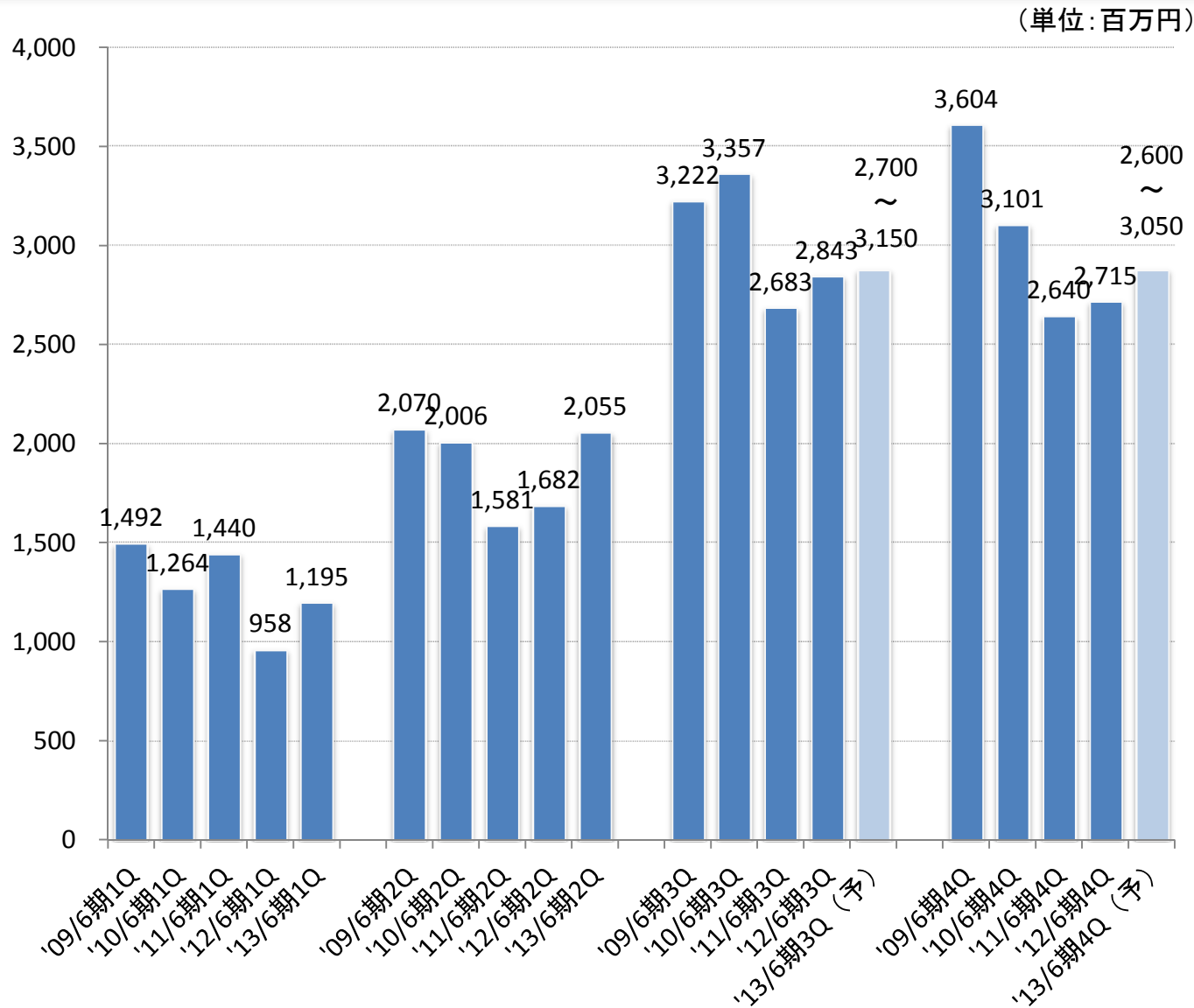
	'12/06期2Q累計	'13/06期2Q累計		対計画増減額 (増減率)	対前年同期増減額 (増減率)
		計画	実績		
売上高	2,640	2,800	3,250	450 (16.1%)	610 (23.1%)
営業利益	△781	△650	△453	196 (-)	328 (-)
経常利益	△812	△690	△487	202 (-)	324 (-)
四半期純利益	△602	△415	△292	122 (-)	309 (-)

第2四半期累計期間の業績推移

営業利益 経常利益 四半期純利益 売上高



上半期業績の傾向



■ 売上高の季節変動

- 受託プロジェクトの検収・納期が、顧客期末の3月以降に集中する季節変動要因が存在
- 例年、年間売上高の約70%が下半期に集中

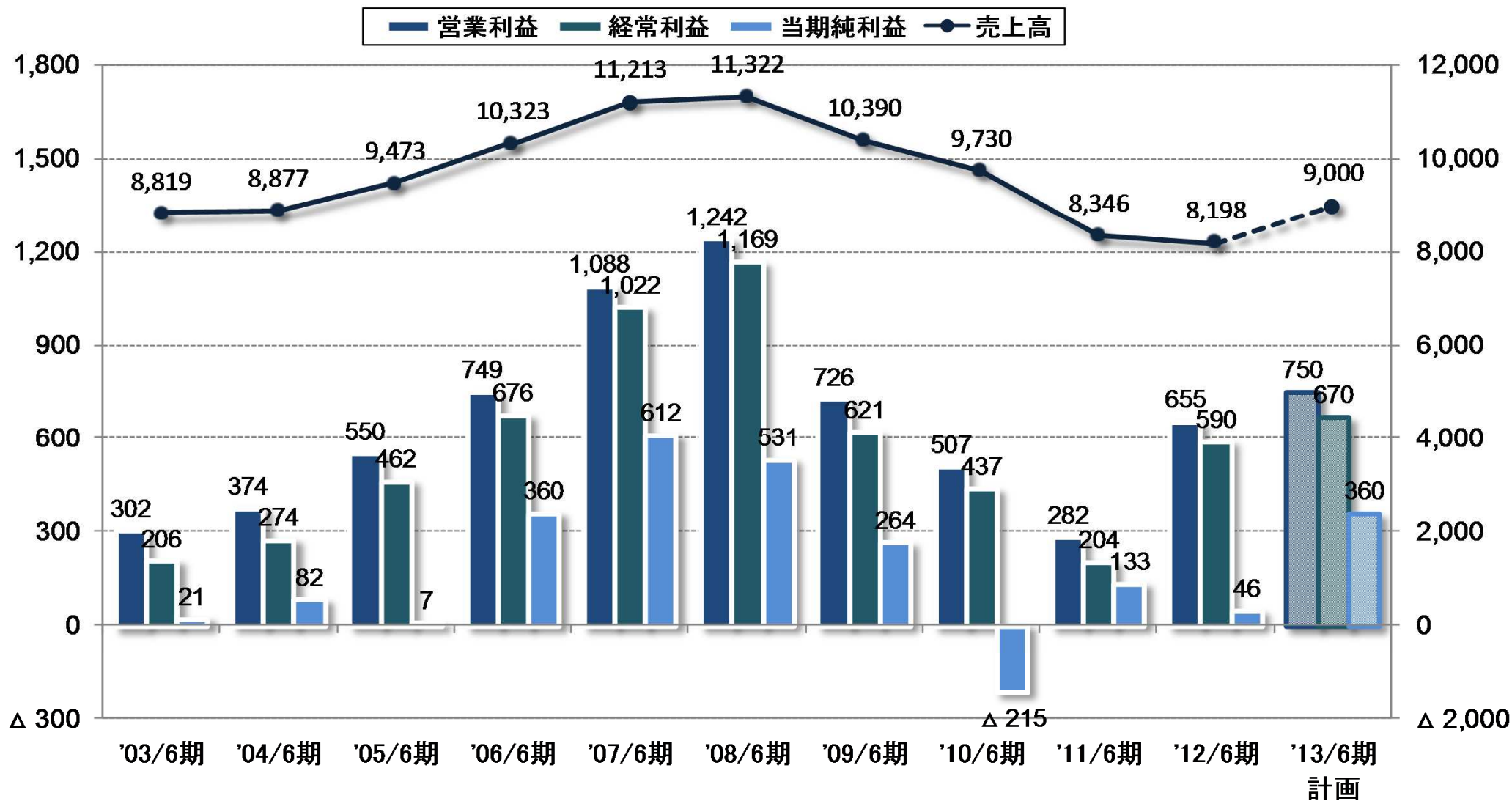
■ 販売費及び一般管理費の計上

- 人材、営業、新規事業などへの投資を重視する当社では、販売費及び一般管理費が総経費の35%弱を占有
- 販売費及び一般管理費は売上高変動に依存することなく月次計上されることから、上半期の業績を圧迫

以上により、下半期に比べ上半期の業績数値は低くなる傾向

※'13/6期(予)は、過去の実績割合による推計値です。

通期の業績推移と年度計画



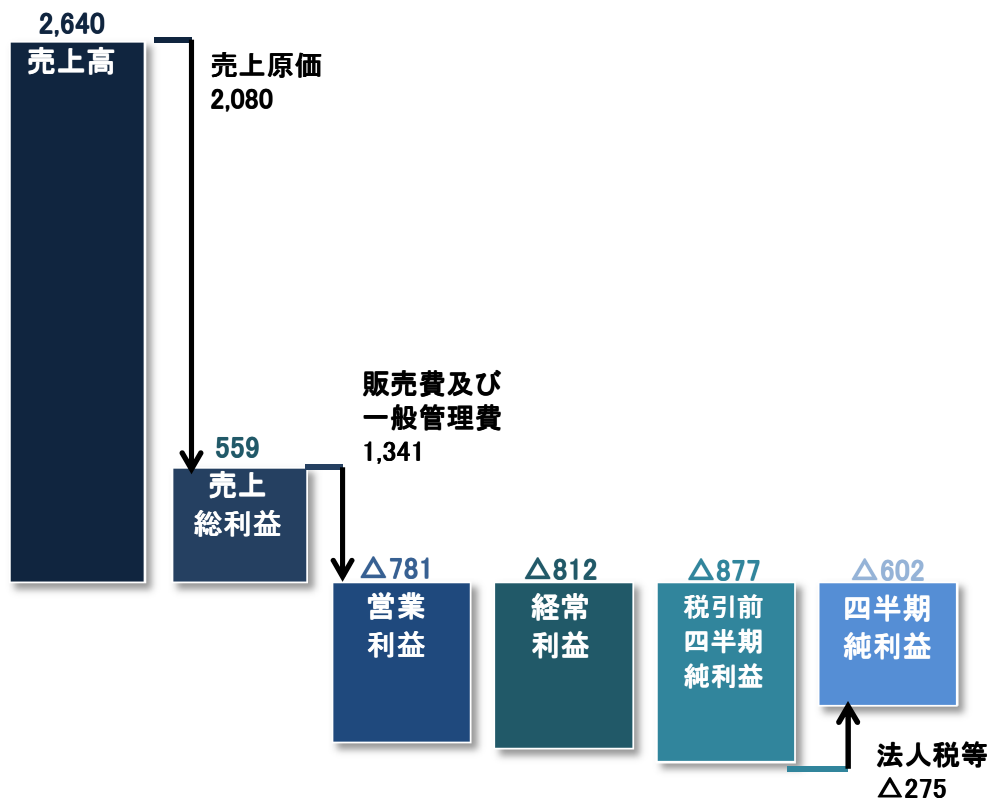
'13/6期 第2四半期損益計算書ハイライト

(単位:百万円)

	'12/6期2Q累計	'13/6期2Q累計	対前年同期増減額
売上高	2,640	3,250	610
売上原価	2,080	1,946	△134
売上総利益 (売上総利益率)	559 (21.2%)	1,304 (40.1%)	745
販売費及び一般管理費	1,341	1,757	416
営業利益(△損失) (営業利益率)	△781 (△29.6%)	△453 (△13.9%)	328
営業外損益	△30	△34	△3
経常利益(△損失) (経常利益率)	△812 (△30.8%)	△487 (△15.0%)	324
特別損益	△65	△0	64
税引前四半期純利益(△損失)	△877	△487	389
法人税等	△275	△194	80
四半期純利益(△損失) (四半期純利益率)	△602 (△22.8%)	△292 (△9.0%)	309

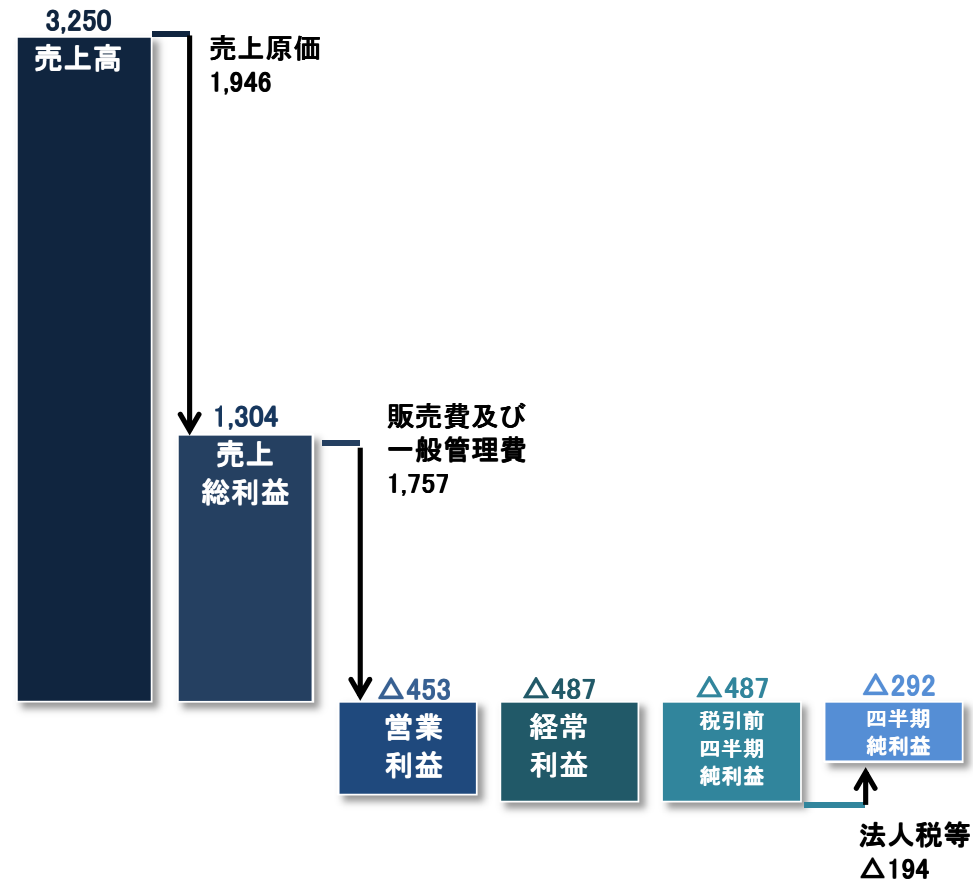
'13/6期 第2四半期損益計算書

2012年6月期2Q累計



2013年6月期2Q累計

(単位:百万円)



'13/6期 第2四半期貸借対照表ハイライト

(単位:百万円)

	'12/6期2Q	'13/6期2Q	対前年同期 増減額
流動資産合計	3,750	3,155	△595
現金・預金	1,186	458	△727
売上債権	981	1,107	125
固定資産合計	7,180	7,028	△152
有形固定資産	5,749	5,603	△145
投資その他の資産	1,059	1,045	△13
資産合計	10,930	10,183	△747

	'12/6期2Q	'13/6期2Q	対前年同期 増減額
負債合計	7,823	6,907	△915
流動負債	5,237	4,601	△635
短期借入金※	3,935	3,145	790
固定負債	2,585	2,306	△279
長期借入金	960	943	△16
純資産合計	3,107	3,275	168
負債・純資産合計	10,930	10,183	△747

※ 「1年内返済予定の長期借入金」は短期借入金に含めて計算しております。

'13/6期 第2四半期貸借対照表

2012年6月期2QB/S

総資産: 10,930
負債+純資産: 10,930

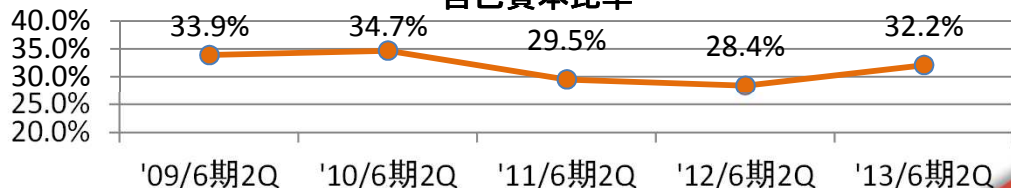
流動資産 3,750	流動負債 5,237	有利子負債 4,962
現・預金 1,186	短期借入金 2,680	
売上債権 981	一年以内長期借入金 1,255	
仕掛品 781	未払金 349	
固定資産 7,180	固定負債 2,585	
有形固定資産 5,749	長期借入金 960	
投資その他 1,059	長期未払金 250	
	純資産 3,107	
	利益剰余金 1,324	

2013年6月期2QB/S

(単位: 百万円)
総資産: 10,183
負債+純資産: 10,183

流動資産 3,155	流動負債 4,601	有利子負債 4,137
現・預金 458	短期借入金 2,280	
売上債権 1,107	一年以内長期借入金 865	
仕掛品 769	未払金 204	
固定資産 7,028	固定負債 2,306	
有形固定資産 5,603	長期借入金 943	
投資その他 1,045		
	純資産 3,275	
	利益剰余金 1,594	

自己資本比率



資産の変化(△747百万円)

● 流動資産の減少(△595百万円)

現金及び預金の減少(△727百万円)
売上債権の増加(125百万円)
仕掛品の減少(△11百万円)

● 固定資産の減少(△152百万円)

有形固定資産の減少(△145百万円)
投資その他の資産の減少(△13百万円)

負債の変化(△915百万円)

● 流動負債の減少(△635百万円)

短期借入金の減少(△400百万円)
一年以内長期借入金の減少(△390百万円)
未払金の減少(△144百万円)

● 固定負債の減少(△279百万円)

長期借入金の減少(△16百万円)
長期未払金の減少(△250百万円)

純資産の変化(168百万円)

● 利益剰余金の増加(270百万円)

‘13/6期 第2四半期キャッシュ・フロー計算書ハイライト

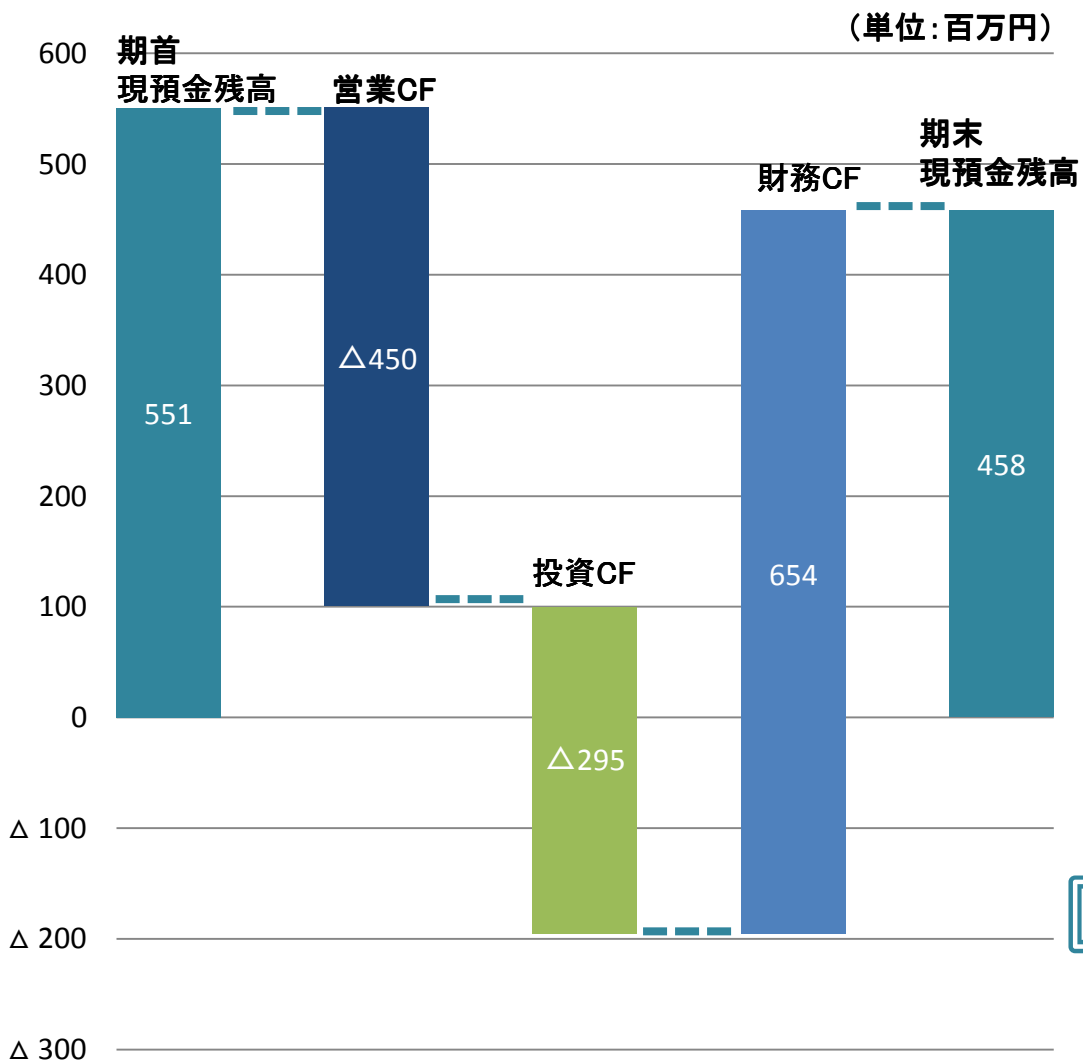
(単位:百万円)

	’12/6期2Q	’13/6期2Q
期首現預金残高	1,584	551
営業活動CF	△943	△450
投資活動CF	△133	△295
フリー・キャッシュ・フロー	△1,077	△746
財務活動CF	679	654
期末現預金残高	1,186	458

‘13/6期 第2四半期キャッシュ・フロー計算書

2013年6月期2Q キャッシュ・フロー

(平成24年7月1日～平成24年12月31日)



営業キャッシュ・フロー主要内訳

- 税引前四半期純損失 $\Delta 487$ 百万円
- 棚卸資産の増加 $\Delta 395$ 百万円
- 売上債権の減少 248百万円
- 仕入債務の減少 $\Delta 58$ 百万円

投資キャッシュ・フロー主要内訳

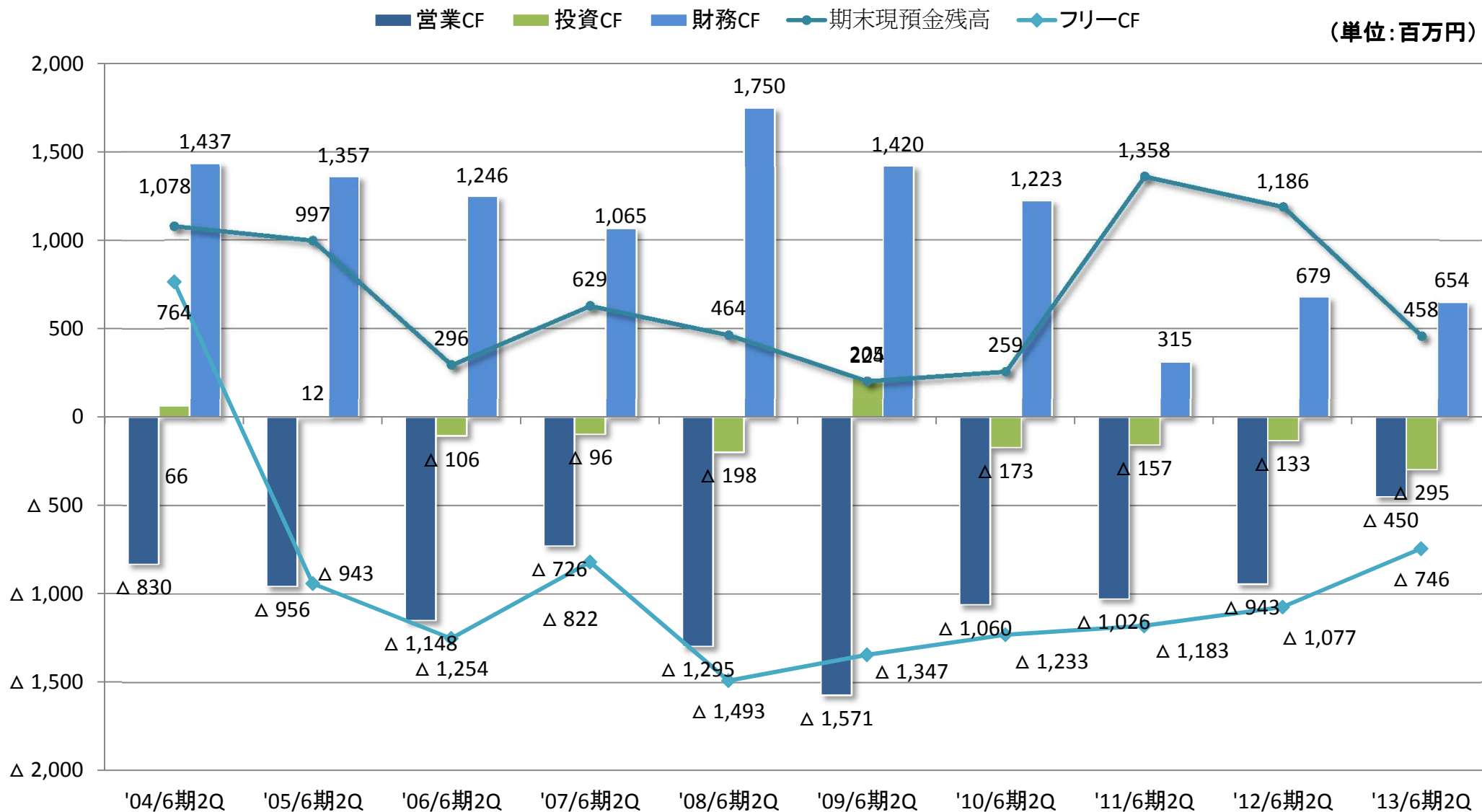
- 無形固定資産の取得 $\Delta 51$ 百万円
- 関連会社株式の取得 $\Delta 200$ 百万円

財務キャッシュ・フロー主要内訳

- 短期借入金の純増 900百万円

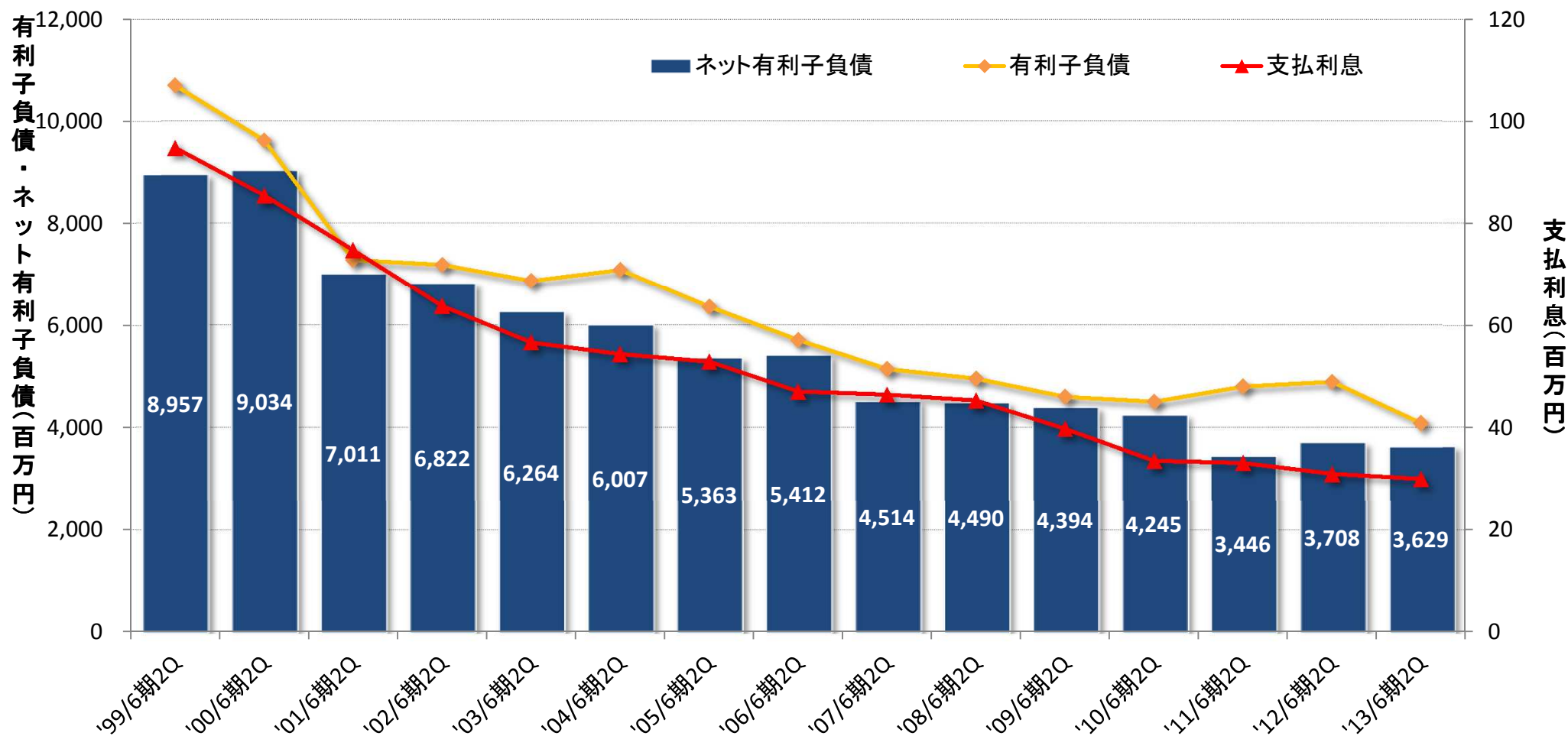
フリー・キャッシュ・フロー $\Delta 746$ 百万円(前年同期比330百万円)

過去10年間の第2四半期キャッシュ・フローの状況



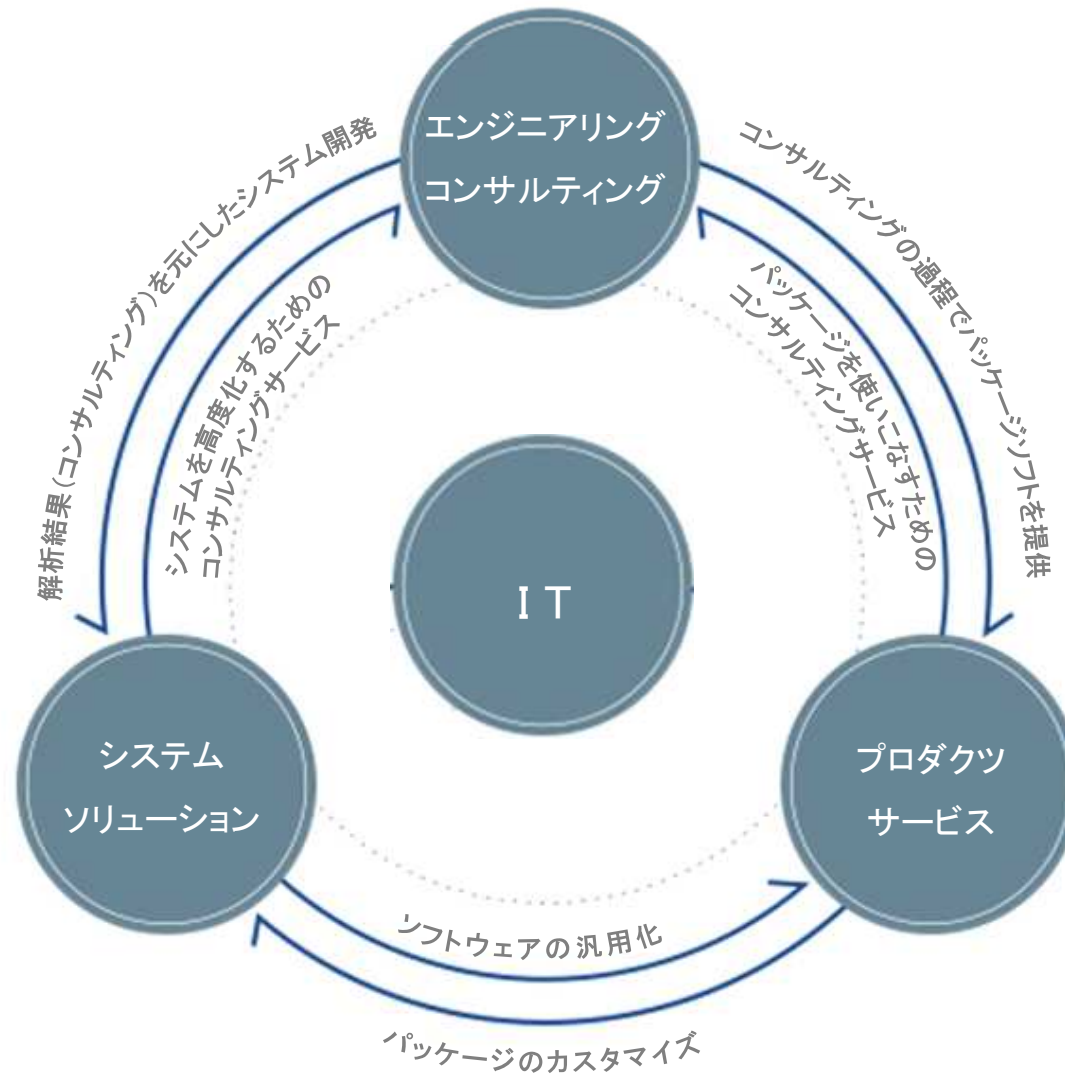
ネット有利子負債の推移

第2四半期におけるネット有利子負債の推移



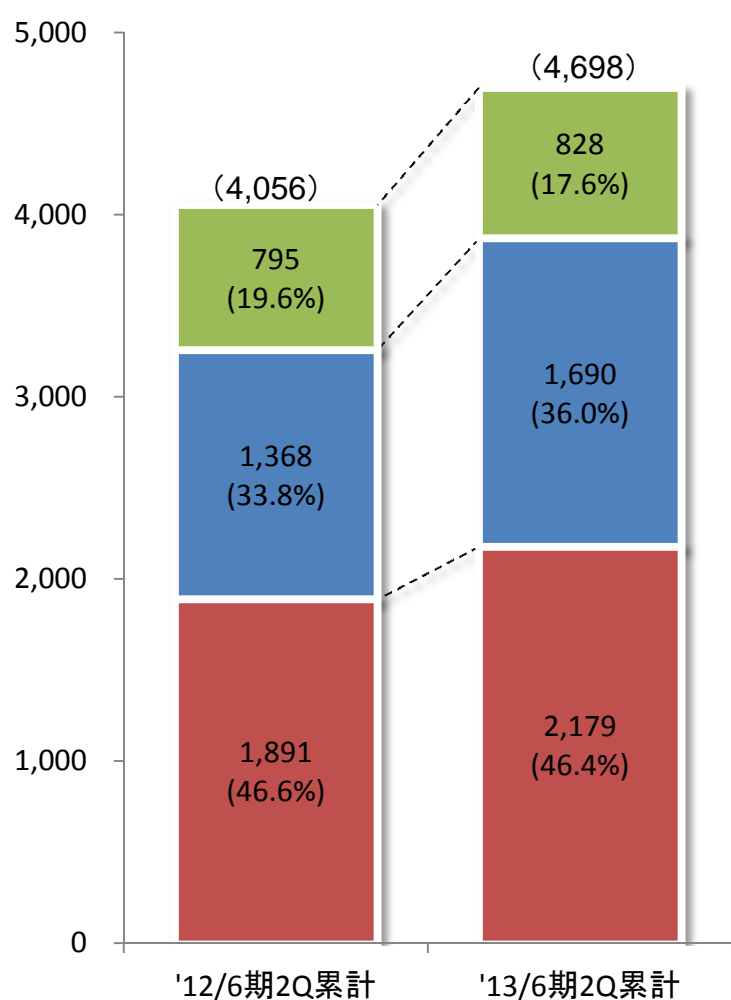
※リース債務は含んでおりません。

セグメント間のシナジー

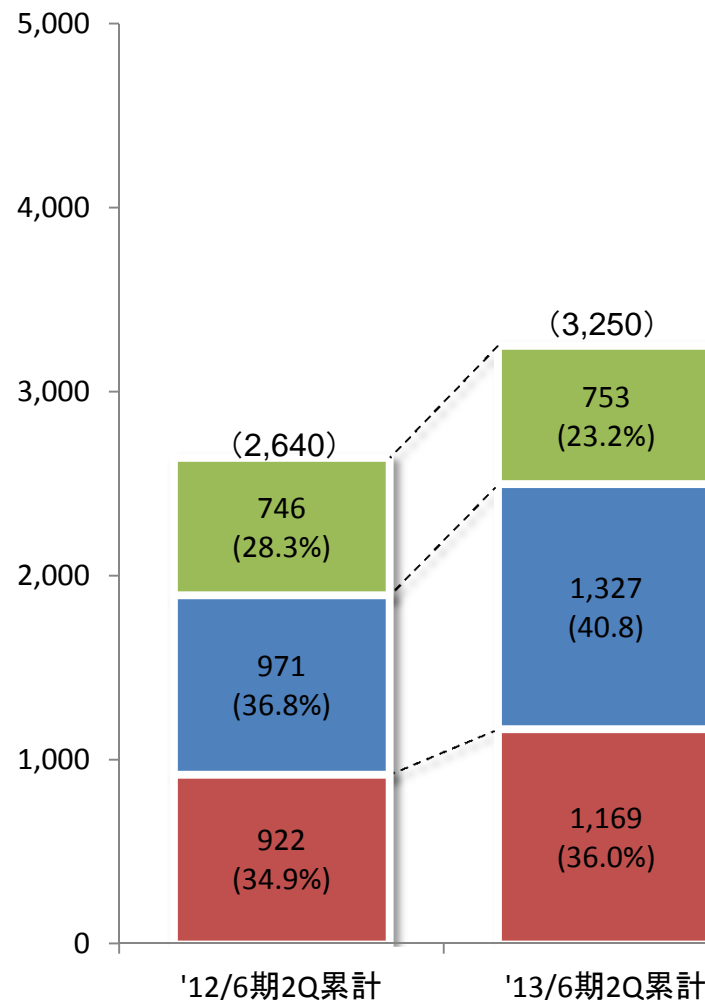


セグメント別受注高・売上高・受注残高の状況

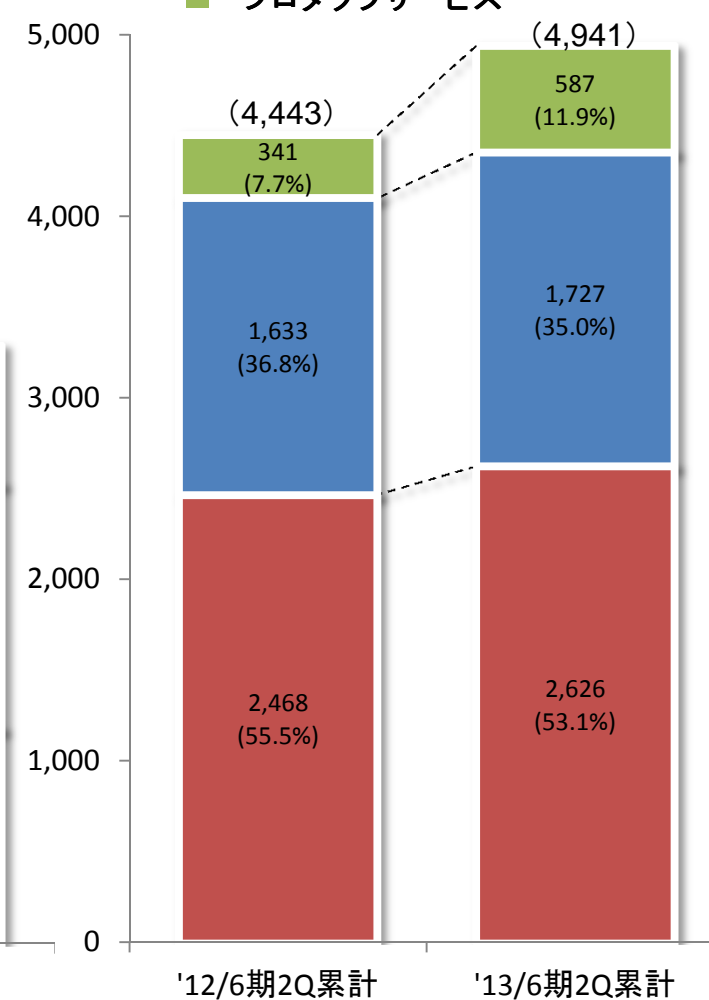
- エンジニアリングコンサルティング
- システムソリューション
- プロダクツサービス



受注高(単位:百万円)



売上高(単位:百万円)



受注残高(単位:百万円)

①エンジニアリングコンサル

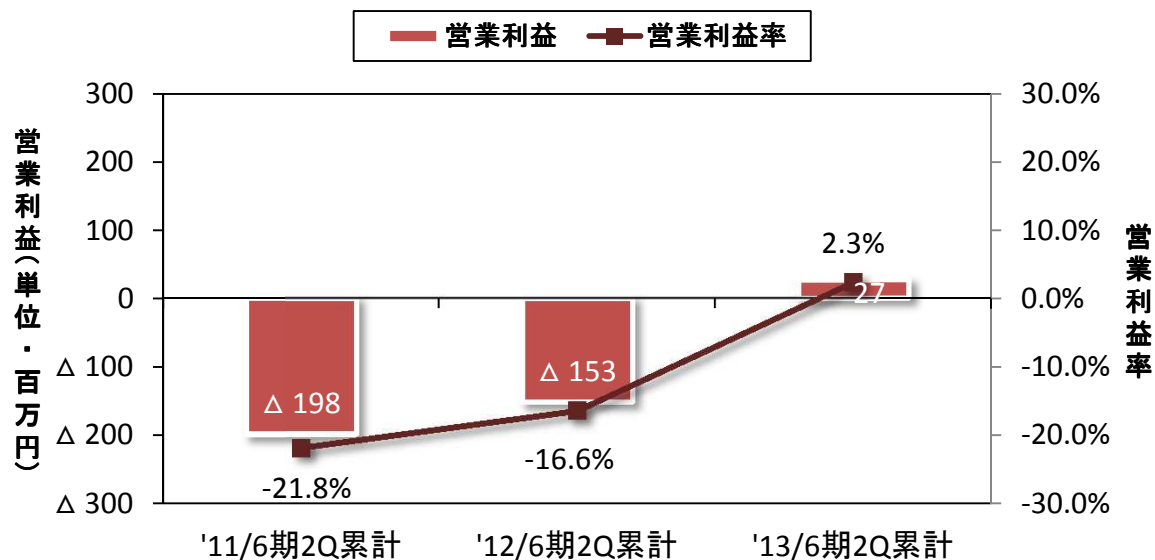
(単位:百万円)

	'11/6期2Q累計	'12/6期2Q累計	'13/6期2Q累計	前期比 増減率
受注高	1,820	1,891	2,179	15.2%
売上高	910	922	1,169	26.8%
営業利益 (利益率)	△198 (△21.8%)	△153 (△16.6%)	27 (2.3%)	—
受注残高	2,052	2,468	2,626	6.4%

- ◆ 防災・耐震・環境評価解析コンサル
- ◆ 建築物の構造設計
- ◆ ソフトウェア開発の要求定義・基本検討
- ◆ 製造・物流系シミュレーション
- ◆ マーケティングコンサル、リスク分析
- ◆ マルチエージェントシミュレーション

業績分析

- 建築構造設計業務の大型案件が前年度に比べ増加
- 防災・耐震関連の解析コンサルティング業務が好調



②システムソリューション

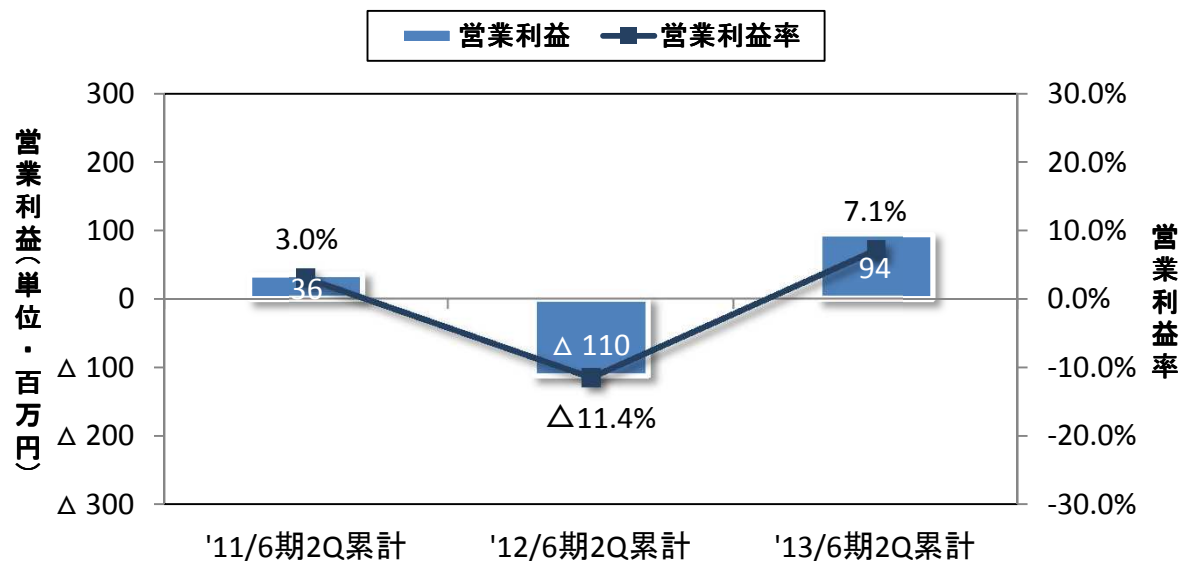
(単位:百万円)

	'11/6期2Q累計	'12/6期2Q累計	'13/6期2Q累計	前期比 増減率
受注高	1,681	1,368	1,690	23.5%
売上高	1,204	971	1,327	36.7%
営業利益 (利益率)	36 (3.0%)	△110 (△11.4%)	94 (7.1%)	—
受注残高	1,702	1,633	1,727	5.8%

- ◆ 構造設計支援システム
- ◆ 移动通信・モバイル・ネットワーク通信システム
- ◆ バス運行関連ソリューションシステム
- ◆ 製造業向け営業・設計支援システム
- ◆ 最適化・物流システム

業績分析

- 大手住宅メーカー向けのシステム開発業務が非常に好調
- 大手物流企業向けの最適化・物流システム開発業務が好調

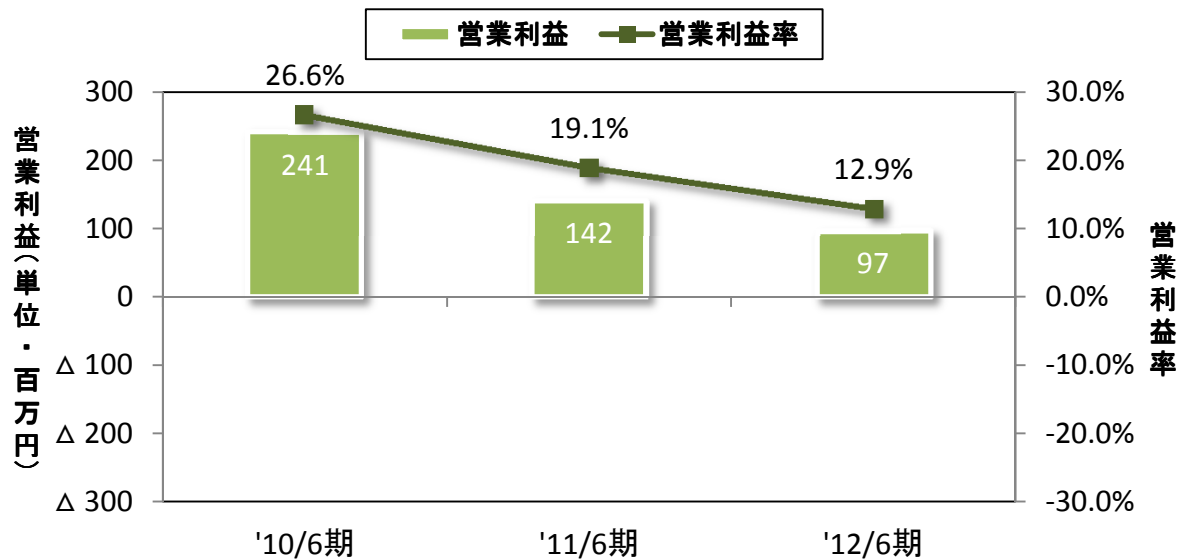


③ プロダクツサービス

(単位:百万円)

	'11/6期2Q累計	'12/6期2Q累計	'13/6期2Q累計	前期比 増減率
受注高	916	795	828	4.1%
売上高	906	746	753	0.9%
営業利益 (利益率)	241 (26.6%)	142 (19.1%)	97 (12.9%)	△31.0%
受注残高	298	341	587	75.4%

- ◆ 建設系構造解析・耐震検討ソフト
- ◆ ネットワークシミュレーションソフト
- ◆ 電波伝搬・電磁波解析ソフト
- ◆ 製造系設計者向けCAEソフト
- ◆ マーケティング・意思決定支援ソフト
- ◆ 統計解析ソフト、画像認識ソフト
- ◆ コンサルティング
- ◆ 教育トレーニング



業績分析

- 建築系構造解析プログラム、統計解析ソフトの販売は堅調に推移
- 設計者向けCAEソフトの販売が伸び悩み

通期業績サマリー

(単位:百万円)

	‘13/6期2Q累計		‘13/6期 通期業績予想
	予想	実績	
売上高	2,800	3,250	9,000
営業利益	△650	△453	750
経常利益	△690	△487	670
純利益	△415	△292	360
配当金	-	-	@20円/株

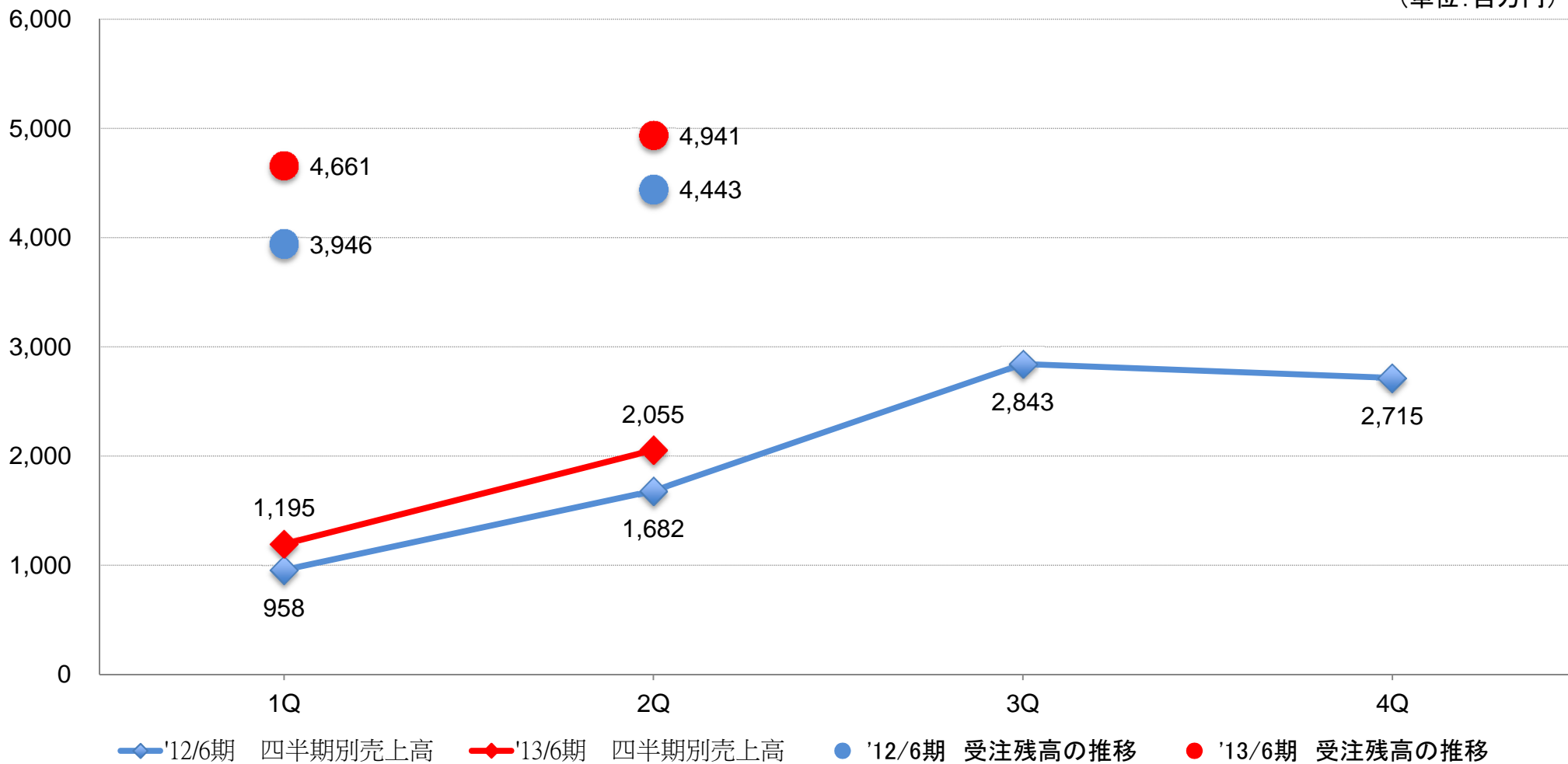
- ・ 通期の見通しは、平成24年8月13日発表の通期業績予想を変更いたしません

(注) 業績予想は、現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、不確実な要因等を含みます

通期業績達成の根拠 1

四半期別売上高の推移と受注残高の状況(前期比)

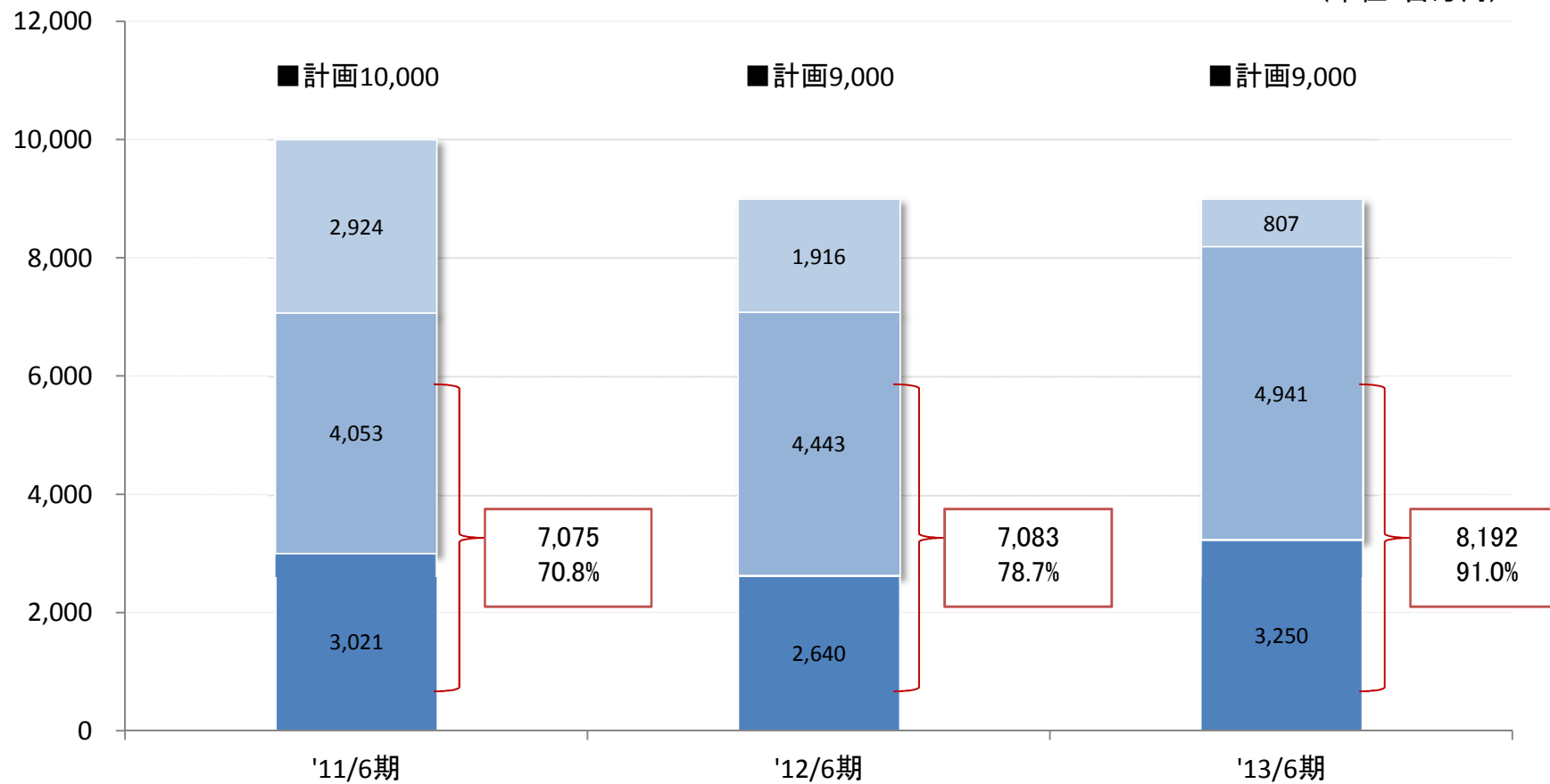
(単位:百万円)



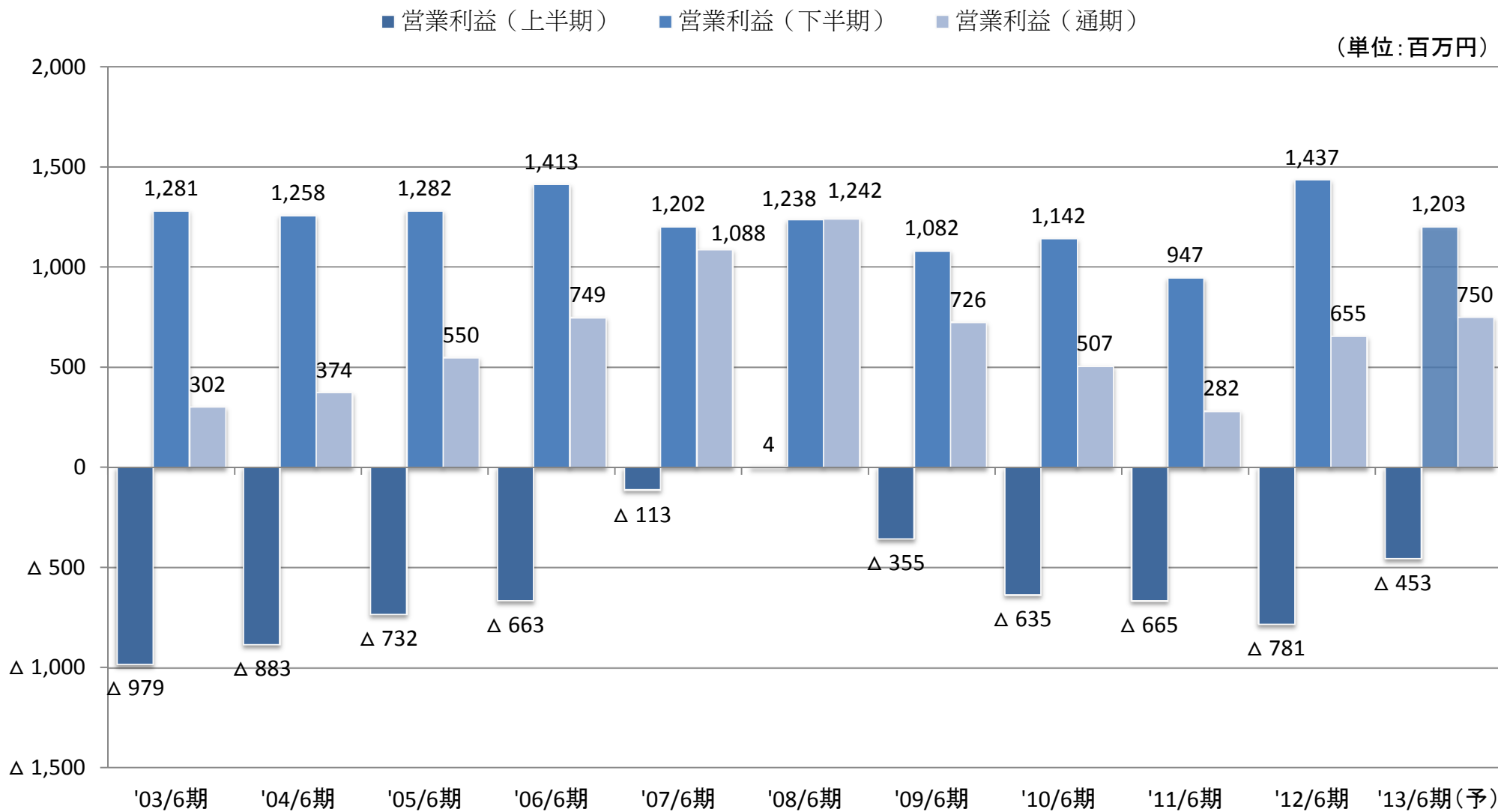
通期業績達成の根拠 2

■ 2Q累計売上高 ■ 受注残高 ■ 下期必要受注量

(単位:百万円)



通期業績達成の根拠 3



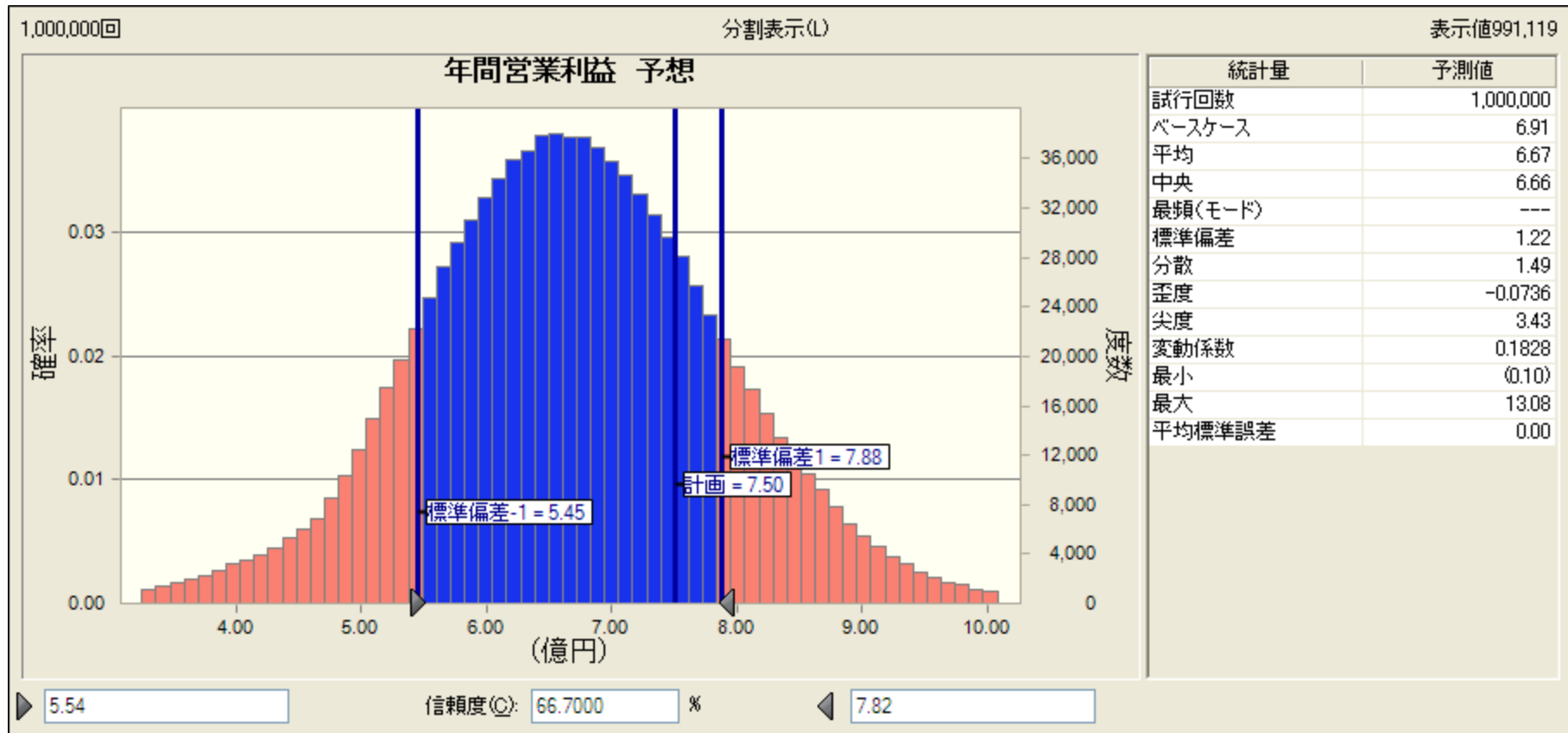
「Crystal Ball」による通期業績予想

【第2四半期時点の通期業績予測における変動要因】

以下の変動要因を考慮し、通期の業績予想を実施
 なお、変動パラメータは過去5年の実績データを参考に設定

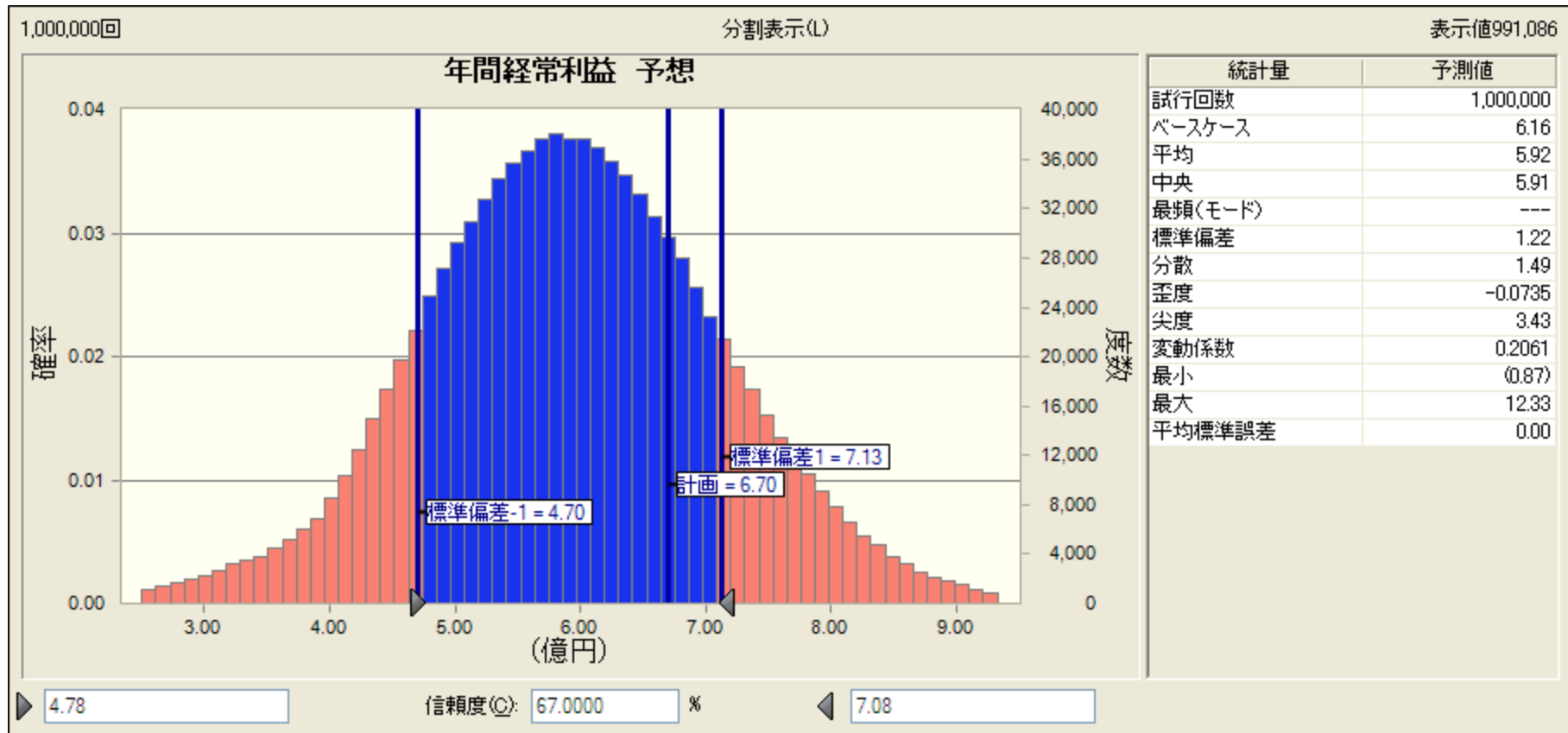
- ・ 下半期受注予測に対する下半期売上高の変動
- ・ 下半期売上想定利益率の変動
- ・ 中間期末受注残高に対する下半期売上高予測の変動
- ・ 業績連動型賃金制度による人件費の変動

「Crystal Ball」_①営業利益



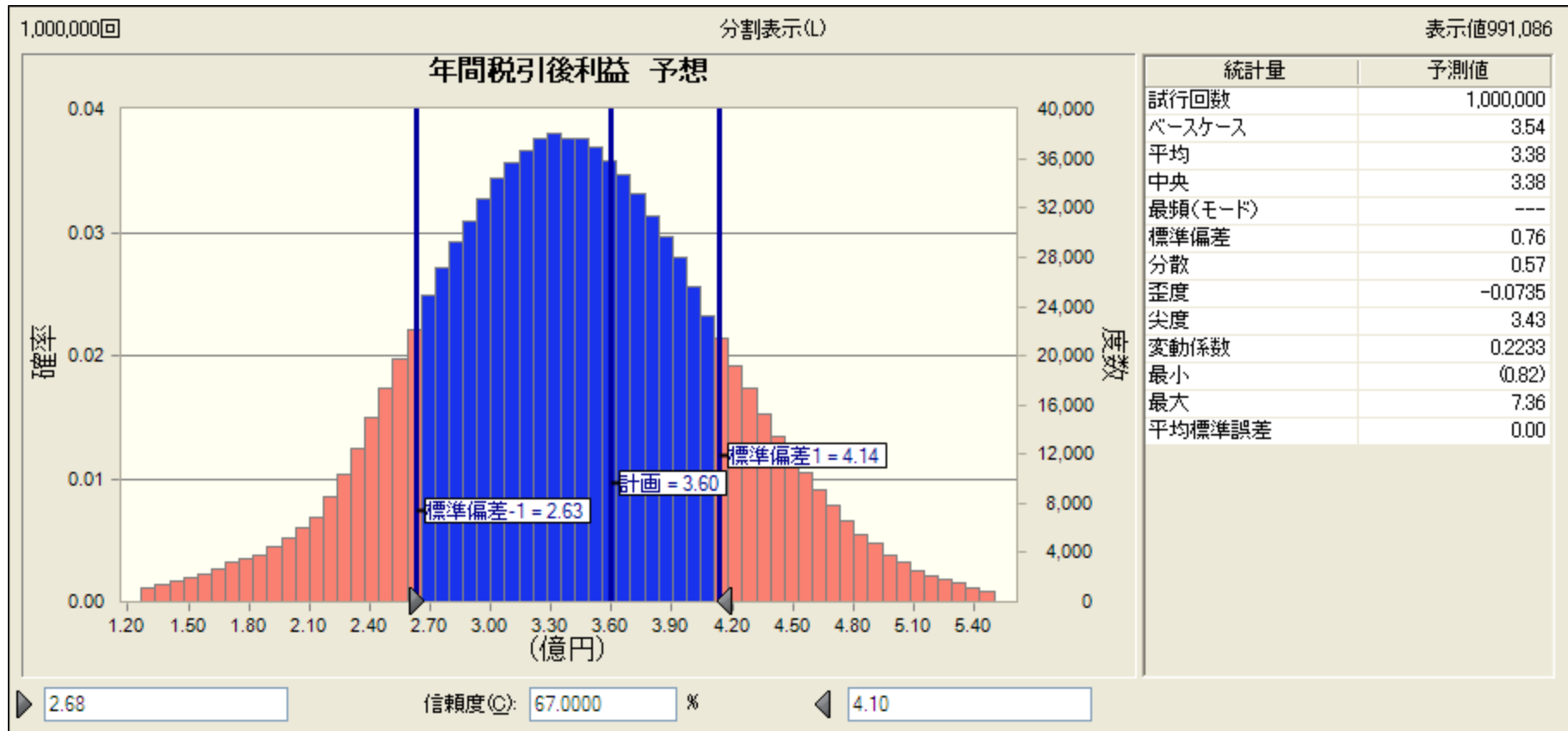
	通期予想(億円)	予想結果
		1σ範囲
営業利益	7.5	5.4~7.8

「Crystal Ball」_② 経常利益



	通期予想(億円)	予想結果
		1σ範囲
経常利益	6.7	4.7~7.1

「Crystal Ball」_③当期純利益



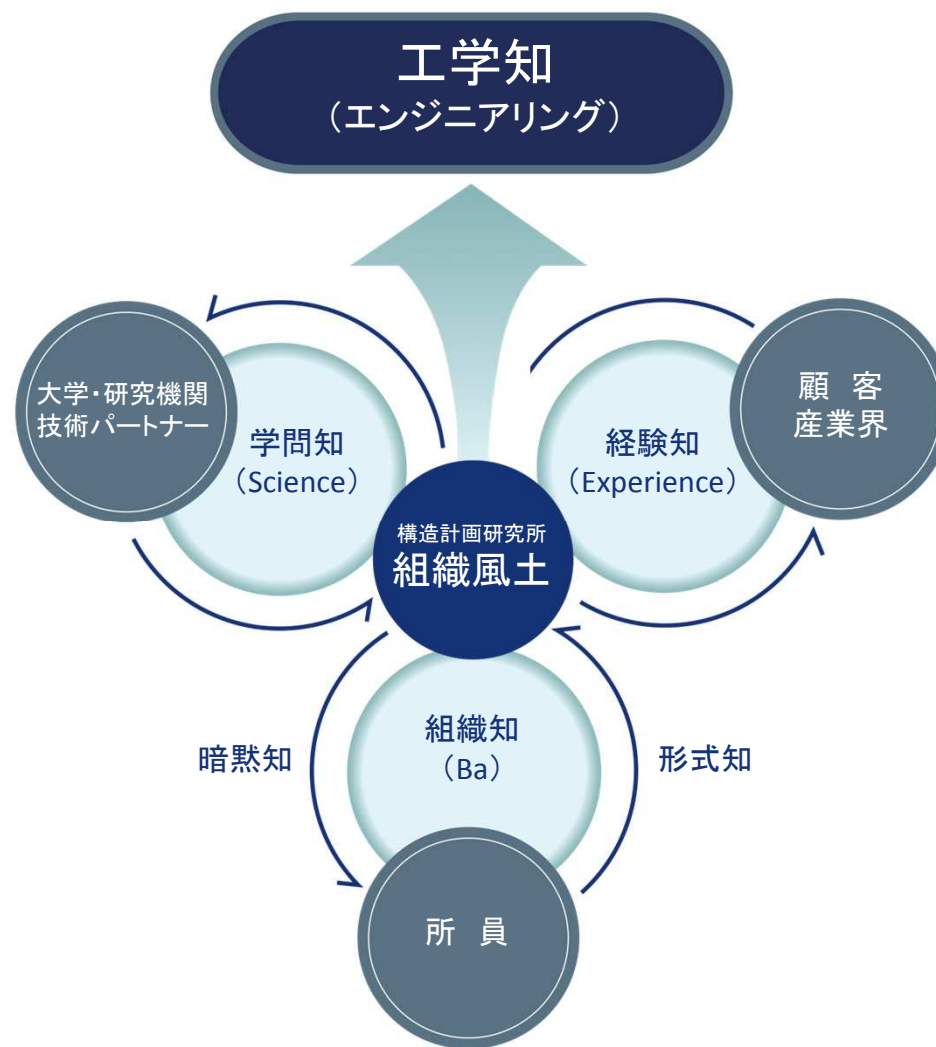
	通期予想(億円)	予想結果
		1σ範囲
当期純利益	3.6	2.6~4.1

当社が目指すありたい姿

Professional Design & Engineering Firm

学問知と経験知による知の循環から
生み出される、工学的手法に立脚した
ユニークな解決策(ソリューション)を
提供することによって高付加価値を
実現する組織

知の循環（付加価値成長の源泉）



5つの I

I ntelligent

知を対価とするビジネスと社会貢献

I ndependent

何にもとられない自由な発想のできる場の設定

I nterdisciplinary

多様な学問分野の組み合わせ、融合

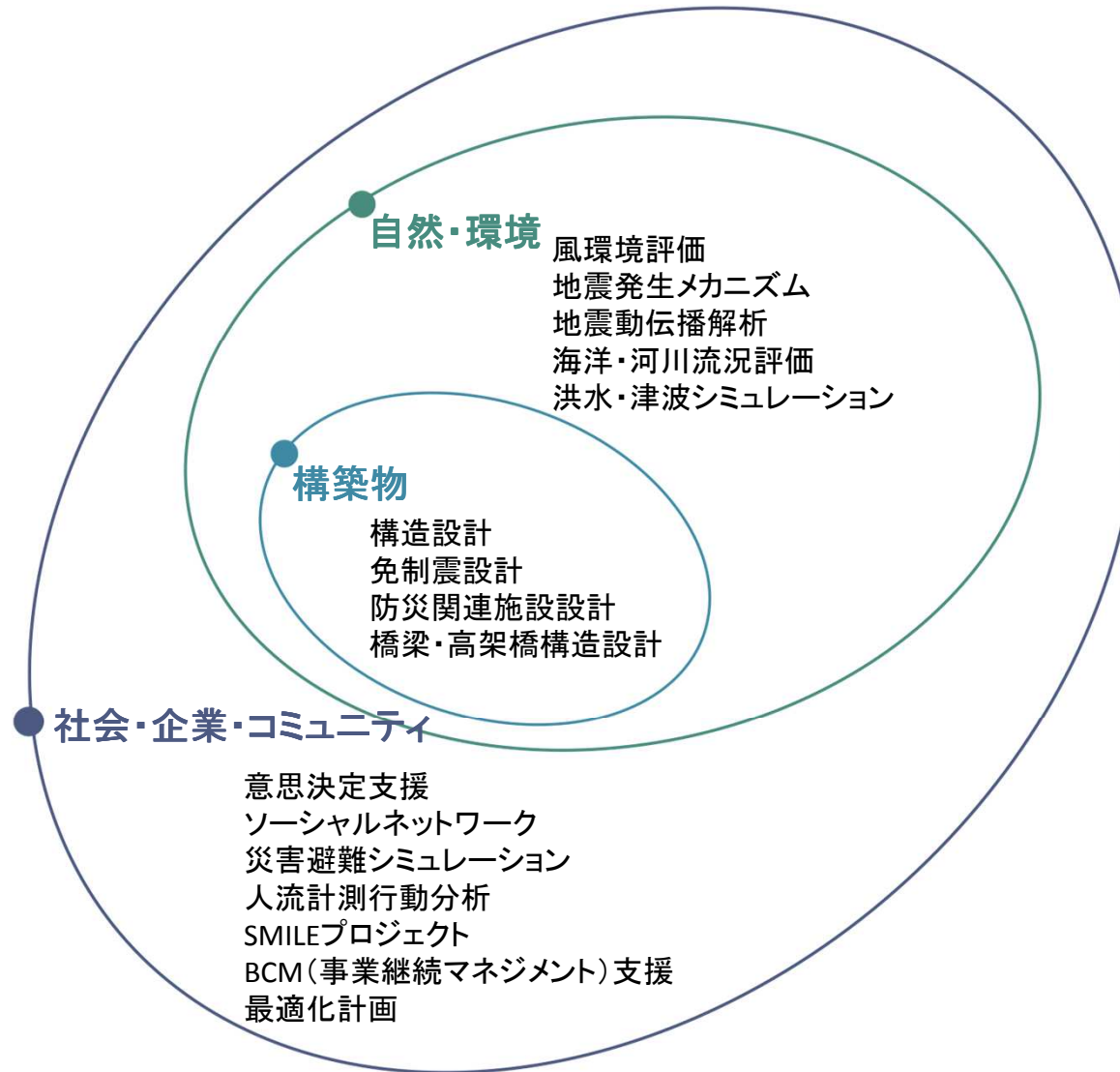
I nnovative

常に新しい事に対して挑戦する気概 風土 DNA

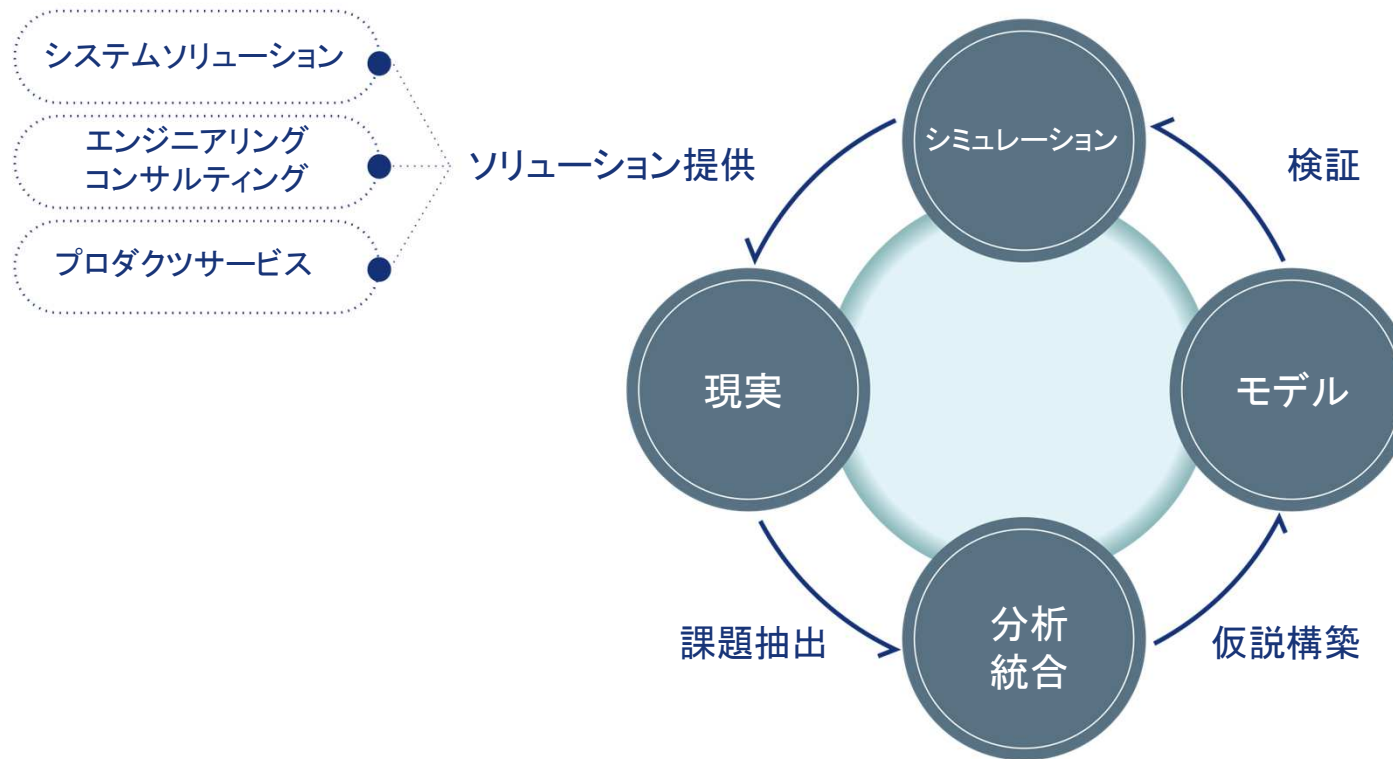
I nternational

異なる知を持つ海外パートナーとの連携

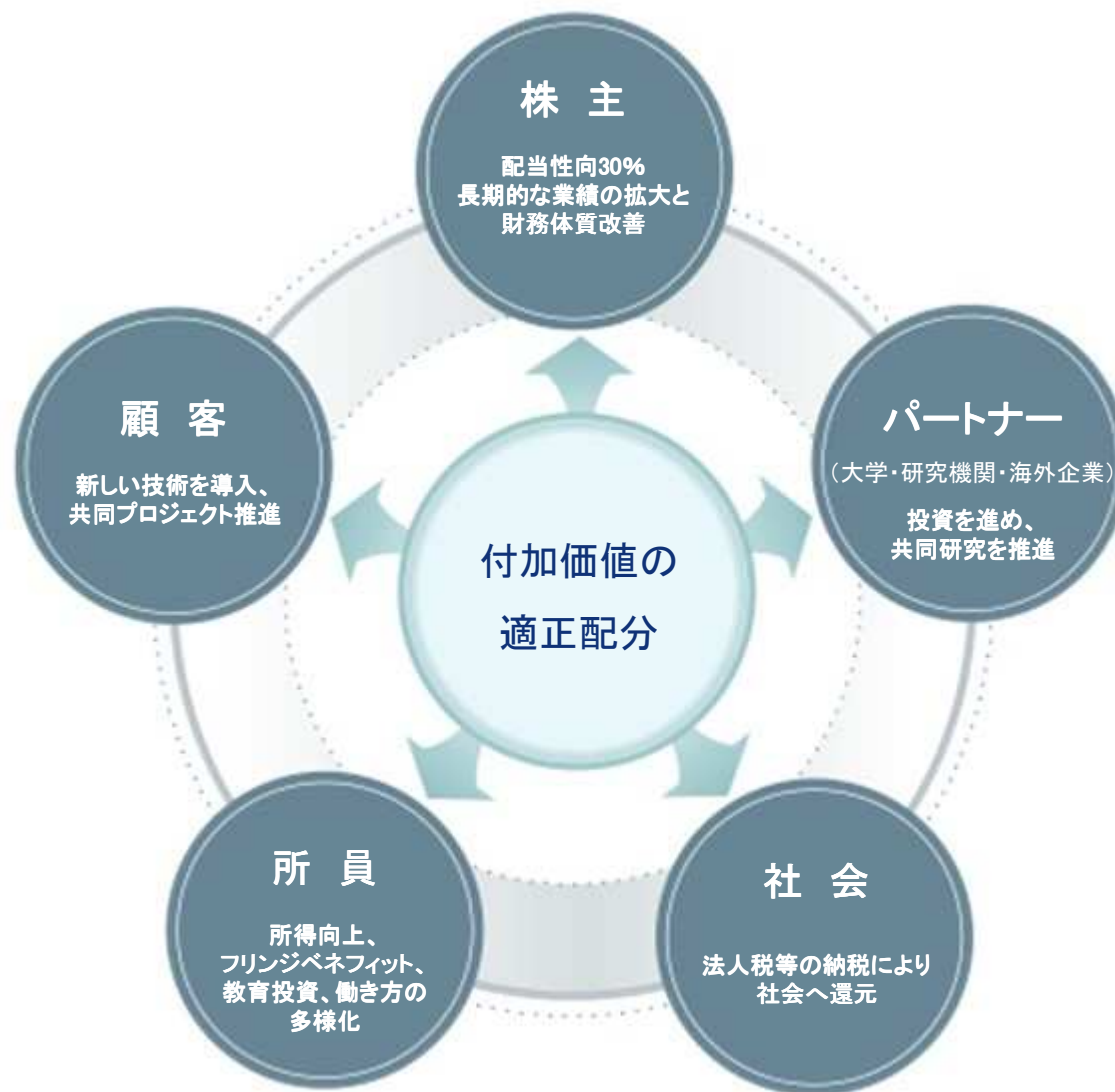
事業領域の拡大



工学的アプローチと提供形態



付加価値の適正配分



付加価値成長のシナリオ

1. 「投資・事業開拓」による
付加価値成長



2. 「所員の成長」による
付加価値成長



3. 「所員(仲間)の増加」による
付加価値成長



※当社では営業利益に人件費を加えた額を付加価値と定義し、各ステークホルダーへの分配可能原資を表しています。

「投資・事業開拓」による付加価値成長①国内のビジネスパートナー

2012年10月29日 資本・業務提携

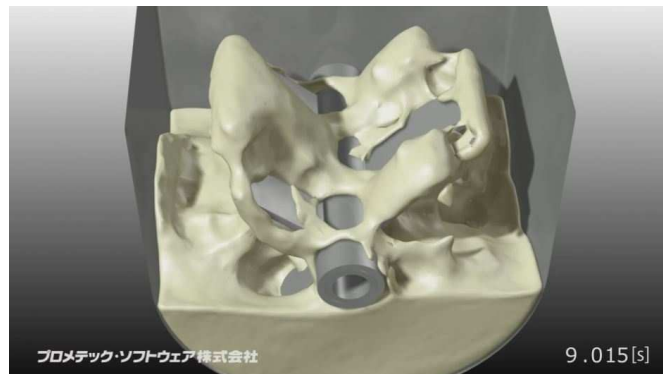
- 会社名 プロメテック・ソフトウェア株式会社
- 設立 2004年10月29日
- 資本金 201百万円
- 売上 315百万円(2012年3月期)
- 当期純利益 約53百万円(2012年3月期)
- 従業員数 18人

流体解析ソフトウェアParticleworks

- 世界初の粒子法(MPS法)を採用した初の商用流体解析ソフトウェア
- 従来手法(メッシュ法)では解けない難しい物理現象が解ける



水はね



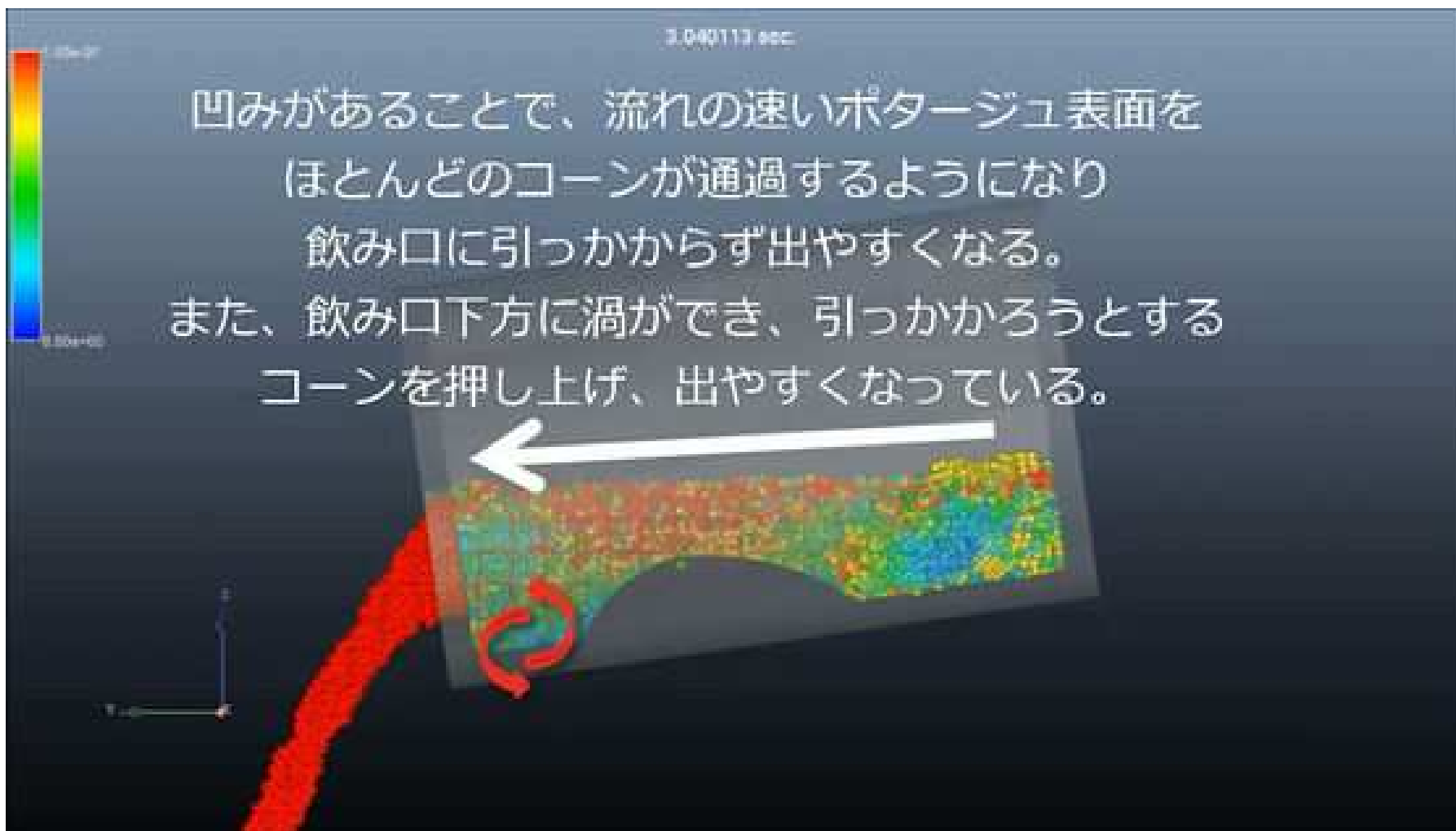
液体の攪拌

粒子法が得意とする現象

- 自由表面流れ
- 碎波
- 攪拌流れ
- 混練流れ
- 粉体流れ
- 流体-剛体連成流れ

「投資・事業開拓」による付加価値成長①国内のビジネスパートナー

Particleworksを使ったコーン入り缶スープの流体解析



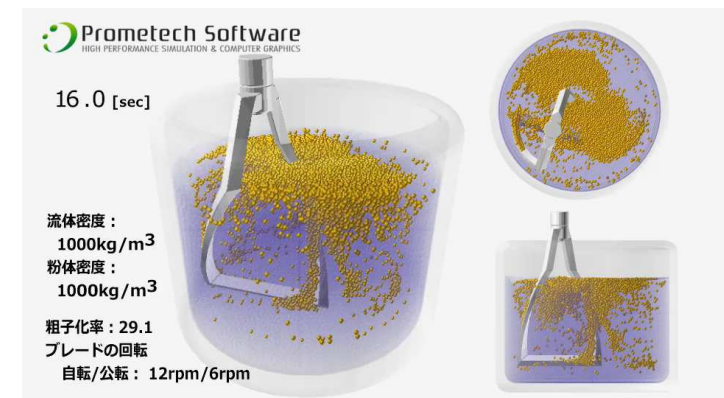
「投資・事業開拓」による付加価値成長①国内のビジネスパートナー

■ 業務提携により期待出来るシナジー効果

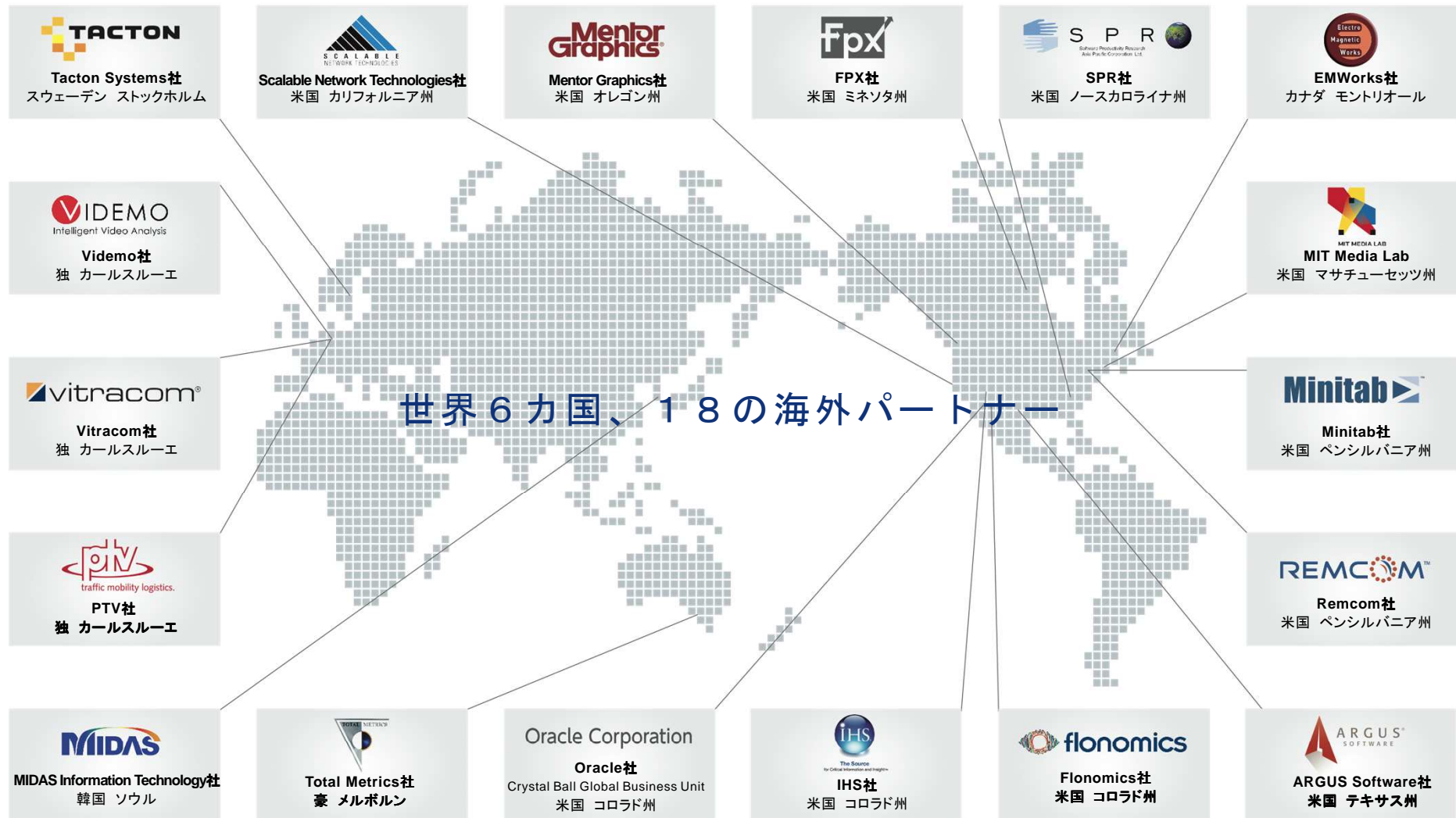
- 土木防災分野を始めとする、粒子法を活用した新しいソリューション提案
- これまで解析できなかった物理現象に対する可能性（液体と粉体、流体と剛体など）
- 可視化、画像処理技術の向上
- 両社の技術者の交流によるソフトウェアの高性能化
- 海外市場への展開

■ カスタマイズにより広がる可能性のある分野

- 津波・河川氾濫
- 原子炉の循環冷却（蒸気と液体の混相流）
- 気泡を考慮したコンクリート充填問題
- 地盤の液状化、橋脚や防波堤盛土洗掘現象
- 洋上風力発電施設など海洋構造物の波力問題



「投資・事業開拓」による付加価値成長②海外のビジネスパートナー



「投資・事業開拓」による付加価値成長③海外のビジネスパートナー

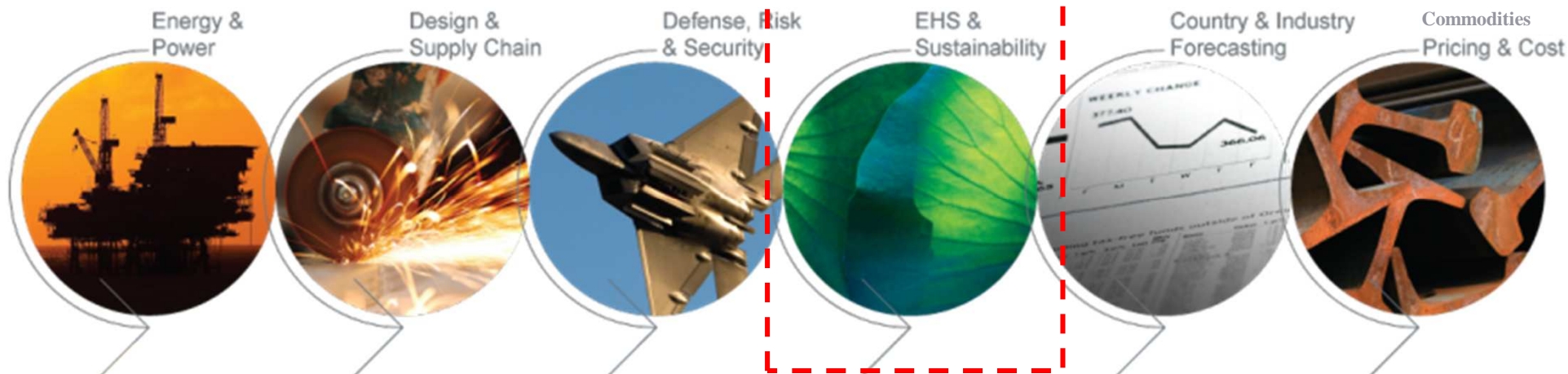
IHS社本体の企業概要

- 会社名: IHS Inc. (Information Handling Services)
- 設立: 1959年
- 代表者: Jerre Stead 氏(2001年12月～)
- 2012年売上 (revenue): 1,529 MM US\$ (約137,688百万円)
- 2012年利益 (net income): 158 MM US\$ (約14,235百万円)
- 従業員数: 7か国で5,500名(本社に600名)
- 本社所在地: Douglas County(米国コロラド州)
- 上場市場: ニューヨーク証券取引所(NYSE)

●IHS社の事業:

- ・業界データの提供
- ・テクニカルドキュメントの提供
- ・ソフトウェアアプリケーション
- ・コンサルティングサービス

パートナー事業部
(Environmental, Health, Safety and Sustainability)



●構造計画研究所－IHS社パートナーシップによる提供ソリューション:

- ・品質リスクマネジメントソリューション、オペレーショナルリスクマネジメントソリューション

【日本のお客様への付加価値】

- ・組織全体、製品ライフサイクル全体のリスクマネジメントによる競争力・企業価値の継続的向上
- ・お客様ニーズにマッチするカスタマイズやコンサルティング、トレーニングを当社からご提供

- 業務提携により期待出来るシナジー効果
 - 両社の顧客に対する提案解決力向上
 - グローバルスタンダードなソリューションで日本企業の世界展開を支援
 - 顧客に合わせた製品カスタマイズ、教育トレーニングサービスの提供

- シナジーの期待できる領域
 - グローバルから要請される品質・リスクマネジメントへの対応
注目業界：自動車、医療（医療機器、医薬）など
 - 企業CSRなど企業サステナビリティ市場の開拓
企業内リスクやコンプライアンスの統合的なマネジメント

5

付加価値成長を実現するために (事業TOPICS)



Professional Design & Engineering Firmの方向性

技術コンサルティング企業として

- 技術課題のパーツ提供から統合システム発想
- 過去の失敗を含めた豊富なエンジニアリング経験

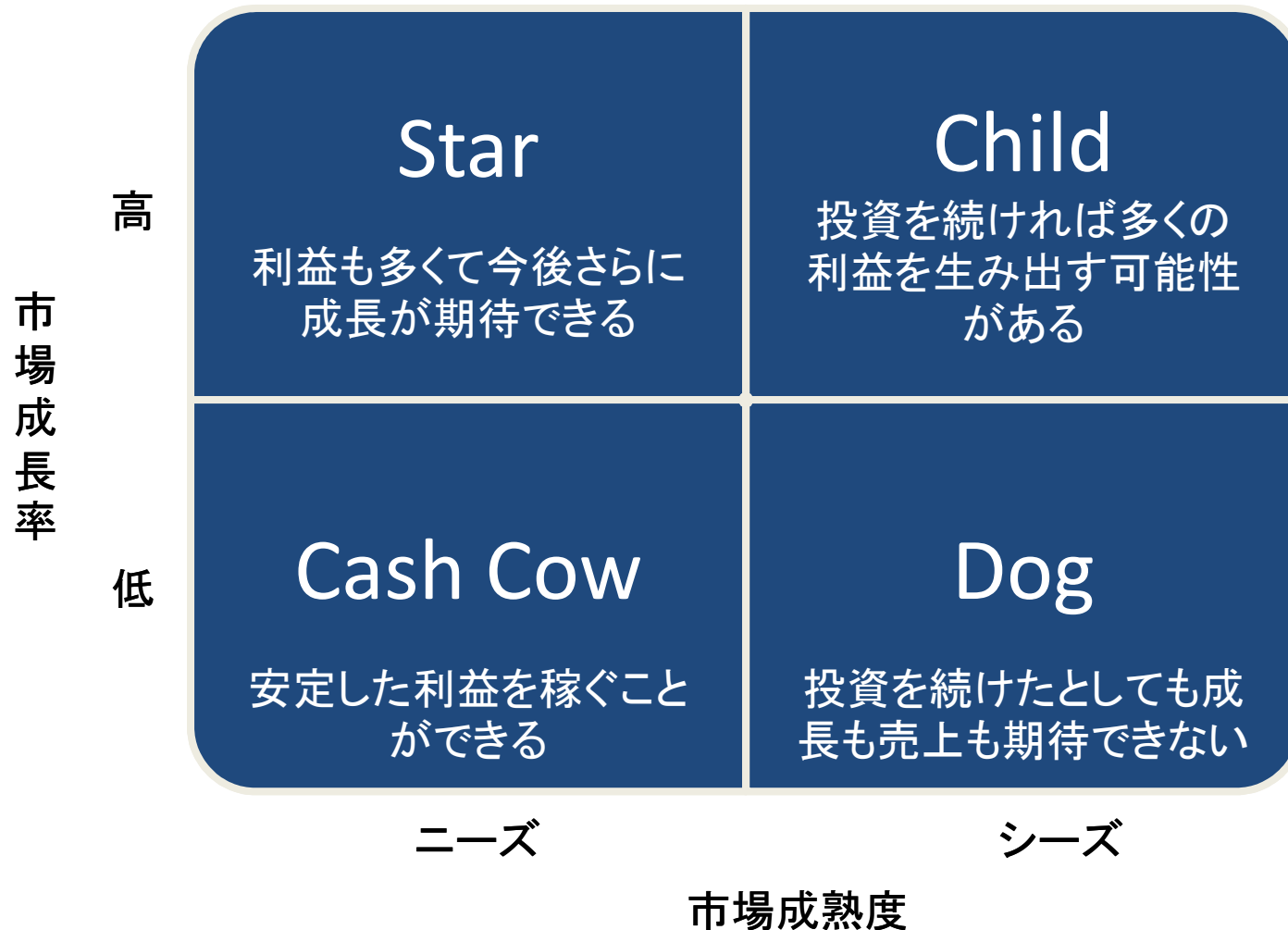
時代のニーズを先取りした先端ソリューション・サービスの提供

- 安全・安心ソリューション 予防・復旧・復興をトータルに支援
- スマートビジネス スマートハウス、スマートシティ、スマートモビリティ
- 合意形成ビジネス 複雑な社会の課題解決を様々なアプローチから支援

世界に売れるモノ、コト、サービスを実現するために

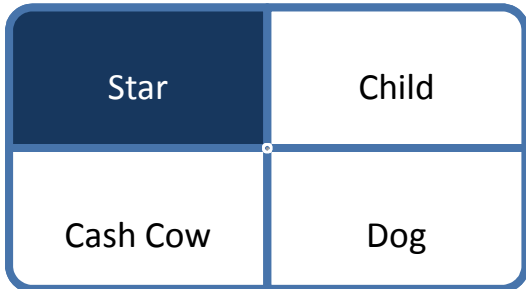
- 日本企業の海外展開を支援するソリューションの提供
- デザイン、マーケティング、ブランディングの発想

プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント (PPM)



※プロダクト・ポートフォリオ・マネージメント(PPM)とは、「限られた資源をどのように配分すべきか」という難問に答えるべく、「経営戦略を反映した資源配分」を考える世界初の枠組みとして1970年代にBCGが開発したものの。

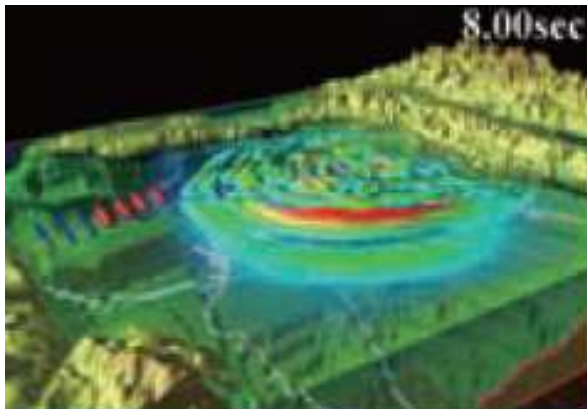
顧客に支持される技術コンサルティング I



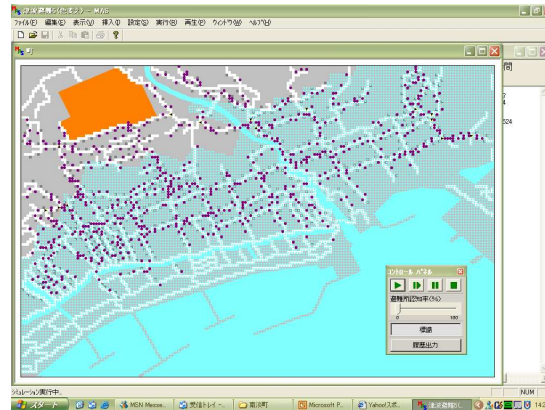
安全・安心ソリューション

- 地震発生メカニズム
- 地震動伝播解析
- 海洋・河川流況評価
- 洪水・津波シミュレーション
- 液状化解析
- 土砂災害の影響検討
- 災害リスクマネジメントソリューション

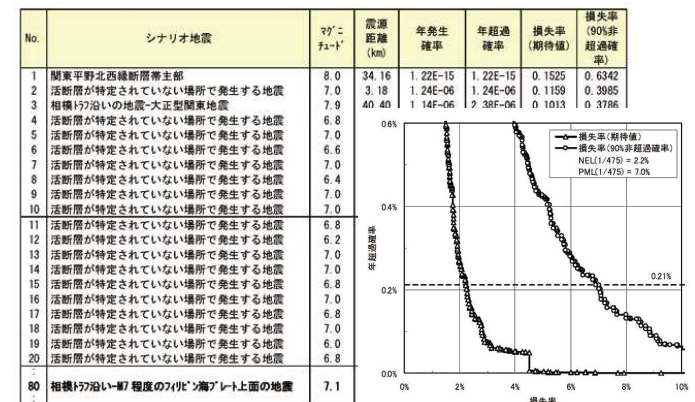
地震動伝播解析



津波解析



地震PML評価



Star	Child
Cash Cow	Dog

設計支援ソリューション

□ 構造設計支援ソリューション

KKEが長年培ってきた構造設計技術をシステム化
安全性だけでなく経済性にも着目した最適な構造設計業務の実現を支援

□ 割付・積算支援ソリューション

詳細化・前工程化に必要な割付・積算業務をシステム化
経験豊富な有資格者による設計者視点のシステムインテグレーション
多数のシステム開発実績と長期にわたり対応できるサポート体制

時代のニーズを先取りして進化させてきたソリューション

Star	Child
Cash Cow	Dog

2005

2008

2010

2013

・国土交通省
住宅・建築関連先導技術開発助成事業

・長期優良住宅の認定制度
・スマートハウス
・HEMS
(Home Energy Management System)

・低炭素住宅認定制度

蓄積

SMILE ASP(家歴書)
住宅、設備、家電・家具
エネルギー、ライフログ



東京大学生産技術研究所
野城智也教授との共同研究開発

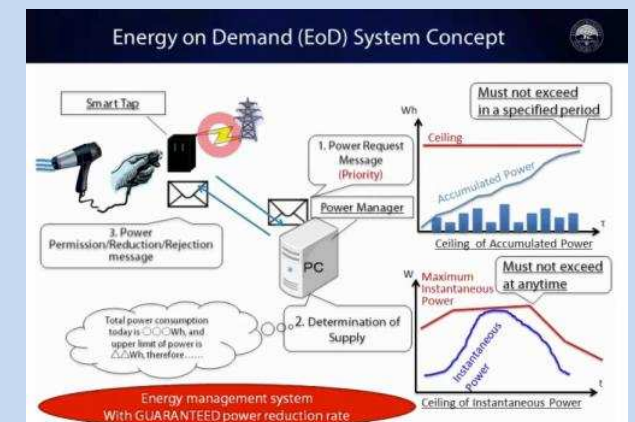
見える化

知粹館
エネルギーモニタリング



情報化・活用

エネルギーマネジメント
次世代エネルギーマネジメントシステム、
コンサルティングサービスの研究開発



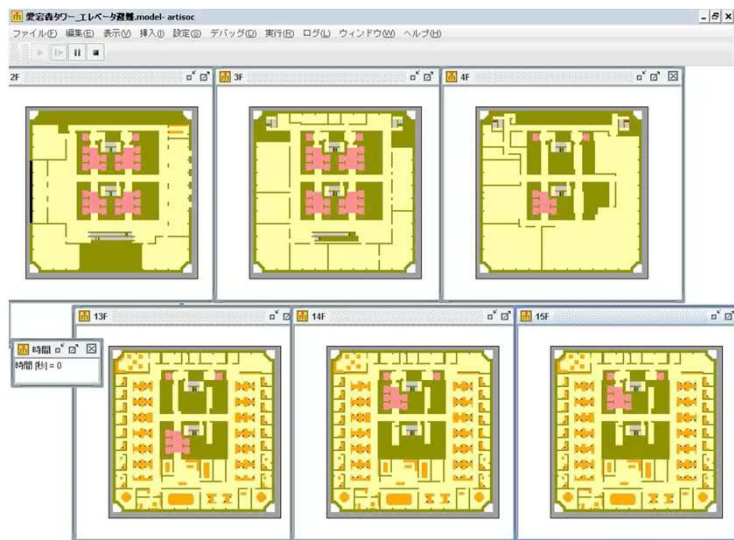
資料提供: 京都大学 松山隆司教授、加藤文和特定准教授
京都大学大学院情報学研究科
松山隆司教授との共同研究開発

海外のソリューションとKKEのソリューションのシナジー

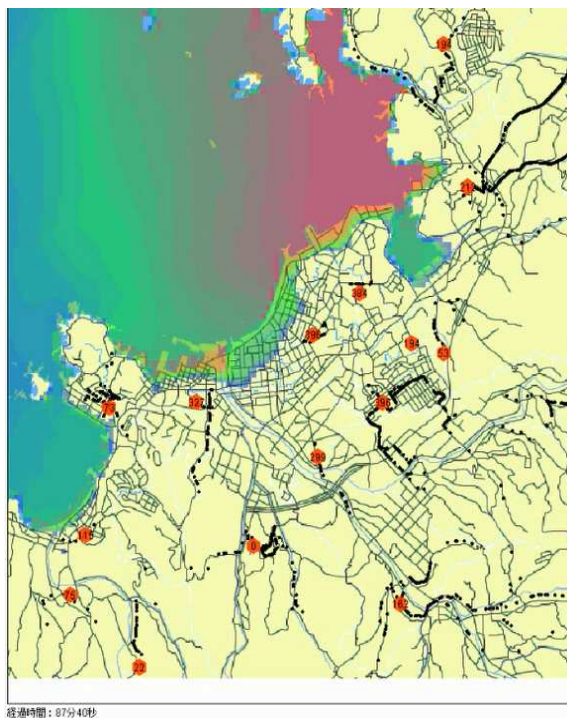
Star	Child
Cash Cow	Dog

建物内の避難から地域・コミュニティの避難へ
個人の行動だけでなく交通手段や状況を含めた避難へ

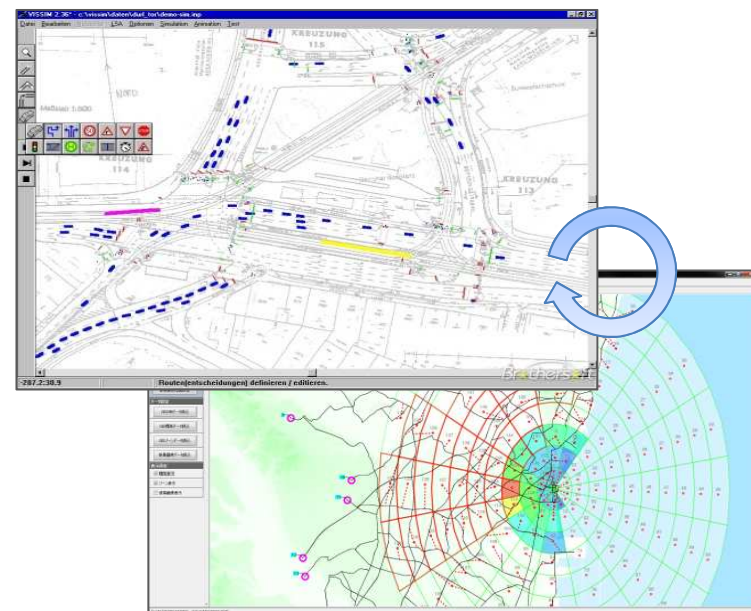
2007～
意思決定シミュレーション(MAS)を使った
超高層ビルにおける火災時避難



2010～
津波避難シミュレーション



2012～
交通シミュレーション(PTV)と
MASを改良したartisocを使った
ETE(避難時間推計)シミュレーション



世界に売れるモノ、コト、サービスを

■ 世界標準のソリューションを日本に

- 統計解析ソフトウェア Minitab
- IHS品質リスクマネジメントソリューション
- 統合型交通シミュレーション PTV VISION
など



■ 日本企業の海外展開を支援

- 進む日本企業のガラパゴス化
円安で商品や製品が海外で簡単に売れるとは限らない
- 日本企業の競争力向上のために
世界標準のソリューションをコンサルティング、カスタマイズ、トレーニング

■開催概要

日時:2013年3月8日(金)

会場:ヒルトン大阪

KKE Vision OSAKA

イノベーション

～エンジニアリングで加速する未来社会～

<p>【テーマ1】 次世代の防災テクノロジー</p>	<p>【テーマ2】 スマートシティとエネルギーマネジメント</p>
<p>東京大学生産技術研究所 教授 川口健一氏 「天井の落下被害をいかにして防ぐか」</p> <p>東京大学大学院工学系研究科 システム創成学専攻 教授 越塚誠一氏 「東日本大震災後の津波防災と粒子法シミュレーションの役割」</p>	<p>日経BPクリーンテック研究所 所長 望月洋介氏 「シティ・イノベーション～社会実装に向かうスマートシティ～」</p> <p>京都大学大学院 情報学研究科 知能情報学専攻 教授 松山隆司氏 「『エネルギーの情報化』によるスマートコミュニティの実現」</p>
<p>【基調講演】 京都大学大学院経済学研究科 教授 武石彰氏 「イノベーションの理由:資源動員の創造的正当化」</p>	

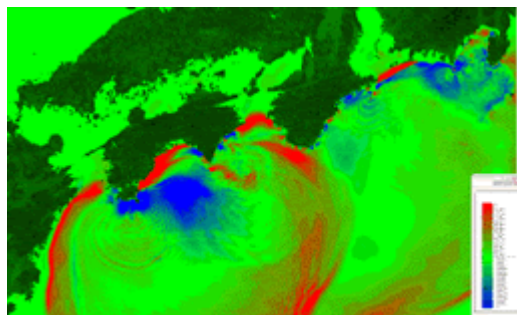
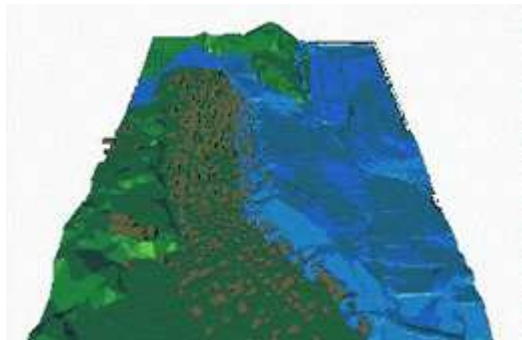
津波被害対策シンポジウム（仮称）

■開催概要

日時: 2013年5月31日(金)

会場: 東京大学

伊藤国際学術研究センター



【基調講演】

東北大学災害科学国際研究所 副所長・教授 今村文彦氏
「津波の危険性と沿岸部の災害対策(仮)」

【ゲスト講演】

鎌倉市ほか自治体関係者、学术界、産業界関係者(予定)



ニュースリリース一覧

日付	内容
2012.7.5	知粹館が「第13回日本免震構造協会賞」を受賞
2012.7.11	設計者向け建築構造計算プログラム「RESP-D」Version 2.0をリリース
2012.8.1	津波・河川氾濫と避難を同時に解析する「避難計画策定支援システム」を開発
2012.8.14	国際的インフォメーションプロバイダー、IHS社と業務提携
2012.9.6	「KKE Vision 2012 - エンジニアリングにときめく - 」開催決定
2012.9.13	3Dレイトレース法を使用した電波伝搬シミュレータ「RapLab」に新機能を追加
2012.10.24-26	「KKE Vision 2012 - エンジニアリングにときめく - 」開催
2012.10.29	プロメテック・ソフトウェア株式会社との資本・業務提携
2012.10.30	日本GPUコンピューティングパートナーシップ(G-DEP)と共同でマーケティング活動を推進することに合意
2012.11.5	マーケティングセミナー「ビッグデータで実現する“おもてなし”顧客対応」を東京本社で開催
2012.11.19	生産ラインシミュレータ「FACTOR/AIM Ver.10.2」をリリース
2012.12.18	複雑系研究コンペ「第13回MASコンペティション」を開催

本日はお忙しい中お越しいただき
誠にありがとうございました

今後とも何卒よろしくお願い致します

【お問い合わせ先】

株式会社 構造計画研究所
法務部(担当:小山、松本)

T E L : 03-5342-1141

F A X : 03-5342-1241

E-MAIL : ir@kke.co.jp

H. P. : <http://www.kke.co.jp>